

大阪市立自然史博物館館報

37

(平成23年度)



〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成24年6月10日発行

目 次

「ミュージアムライフ」博物館のある人生	1
第42回特別展「来て！見て！感激！大化石展」	2
東日本大震災に直面した遠隔地の博物館として	6
調 査 研 究 事 業	9
資 料 収 集 保 管 事 業	19
展 覧 事 業	28
普 及 教 育 事 業	35
広 報 事 業	44
刊 行 物	46
連 携 (ネットワーク)	47
庶 務	48

「ミュージアムライフ」博物館のある人生

館長 山西良平

関西では「○○○のある時～（みんな笑っている）、ない時～（うなだれている）」という豚まんのCMが知られている。博物館も豚まんのように栄養価が高くて利用者によるこんでもらえる存在であってほしい。博物館のある人生、つまり博物館を利用することによって豊かになる人生（ミュージアムライフ）について考えてみたい。当博物館の利用の仕方を思いつくまライフステージに沿って追ってみる。

- ・子どもの頃に学校の遠足や校外学習で博物館の展示を知る
- ・休日には展示室を訪れてワークショップや探検クイズを楽しむ
- ・小学生対象の「はくぶつかんたんけん隊」に申し込んで収蔵庫や裏方をみせてもらう
- ・自然観察会など博物館主催の行事に参加するようになる
- ・家族で友の会に入って、月例行事や合宿、ナイトミュージアムなどに参加する。よく一緒に参加する人たちや行事の世話役、学芸員とも親しくなる
- ・「親離れ」が進んだ中学・高校生の時代にはジュニア自然史クラブに登録して、同世代とともに自然体験を楽しむ
- ・大学生になって、野外行事の補助スタッフやワークショップのサポートスタッフなどのボランティア活動に参加するようになる
- ・大学の博物館実習で博物館に受入れてもらい、標本の取扱いや博物館の仕事を体験する
- ・友の会総会、合宿、秋祭り、自然史フェスティバル、年末のパーティなどの年中行事を楽しむ
- ・地元の自然をしらべる市民参加型のプロジェクト調査に参加し、生物分布図づくりや標本収集、特別展の開催に協力する
- ・友の会やNPO事業の企画に参画し、参加者の世話をする。
- ・学芸員が世話をする研究サークル（同好会）に入り、仲間とともに採集や調査に参加する
- ・博物館の外来研究員に登録してもらい、標本、文献や研究機器、設備を利用しながら本格的なナチュラルリスト、研究者の道を歩む
- ・博物館の標本整理を手伝う
- ・自分が集めた標本のコレクションを博物館に寄贈する

この博物館に就職してから35年になるが、私の知っている範囲でも、長年にわたって博物館をいろんな形で利用して「ミュージアムライフ」を楽しんでおられる方々がたくさんおられる。また、逆に博物館の活動がこのような周囲の人々によって有形・無形に支えられていることも見えてくる。人々にどれだけ幅広くかつ奥深く利用メニューを提供できているかは、その博物館の成熟度を示す指標になるかもしれない。

これからの博物館は、展示を観覧するビジターにサービスするだけでなく、より積極的に、博物館を交流や参画の場としても利用しようとするユーザーの要求に真剣に応えていかなければならない。博物館がなすべきことをミュージアムライフの視点で捉えなおしてみてもうどうだろうか？

第42回特別展 来て！見て！感激！

大化石展



平成23年7月2日(土)から8月28日(日)まで、特別展「来て！見て！感激！大化石展」を開催した。

大化石展では、巨大なゾウや恐竜の化石から、琥珀に閉じこめられた小さな昆虫の化石まで、化石の魅力を紹介し、地球環境の変化とともに生物が移り変わってきた様子を来場者に体感していただいた。子どもばかりではなく、大人にも人気があり、会期中に30,159人の入場者があった。

展示の構成は、第1部「化石とは何か」では、ゾウの歯や足跡、マンモスの毛、石になった木など、様々な状態で地層の中に残されている化石を紹介し、化石の本質を解説した。「クイズ 化石でないのはどれ?」、「美しく見とれてしまうような化石」、「さわることができる石になった木」、「虫入り琥珀」などが人気であった。第2部「生命と地球の歴史」では、46億年という地球の歴史の中で生物の種類が移り変わってきた様子を時代の流れに沿って展示した。917点の標本をもとに、まるでタイムマシンで過去へ旅をしたように、生命の移り変わりを体感できる展示となった。

展示配置図、関連イベントなどの詳細は28～31ページ参照。閉幕後に、博物館のホームページのバーチャル博物館/バーチャル特別展 (<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2011kaseki/virtual/index.html>) を作成し、展示した標本を紹介している。

上のロゴに入っているイラストは特別展の公式キャラクター「まきまき太郎」である。展示してあるアンモナイトをもとにデザインされたキャラクターで人気があった。子ども向けの解説パネルにも組み込んで、楽しい雰囲気での展示を行った。

展示構成

第1部 化石とは何だろうか？

- 1 化石とは何か？
- 2 化石のでき方
- 3 化石の残り方
- 4 人類と化石
- 5 化石を研究すると何がわかるのか？

第2部 生命と地球の歴史

- 1 地球と生命の誕生
- 2 海から陸への進出—古生代の生物—
- 3 恐竜とアンモナイトの時代—中生代の生物—
- 4 日本列島の誕生
- 5 大氷河時代—鮮新・更新世の生物—
- 6 最終氷期から現在

会場入口の様子：会場に入るとコウガゾウとヤベオオツノジカが目に入る展示配置は入場者を惹きつけた。コウガゾウ(黄河象)は、約250万年前の中国にいた、肩の高さ3.8m、全長7.6mのゾウである。その迫力に子どもも大人も驚きの目で見学していた。日本にもコウガゾウに似たゾウであるミエゾウが見つかる。ヤベオオツノジカは、ナウマンゾウといっしょに見つかり、角の両端の幅は1.5mもある。12,000年前ごろに絶滅した。たくさんの子どものお気に入り化石として、コウガゾウやヤベオオツノジカのスケッチを書いてくれた。



第1部 化石の残り方のコーナー：このコーナーでは化石には様々な残り方があることを標本を示しながら展示した。その一つである、生物の体が鉱物に置き換わった化石として、石になった木（珪化木）を触れるように展示した。化石という言葉は「石に変化する」というイメージがあるが、その言葉通りの化石である。見た目は現在の材と変わらないのに、触ってみると石であることを実感でき、来場者は驚いていた。子どもにも人気があった。会場入口の外にも、触ることができる直径1メートルもある珪化木を展示し、記念写真が撮れるよう日付表示を行った。



第1部 化石の残り方の「琥珀に閉じ込められた昆虫化石」のコーナー：琥珀は植物が分泌する樹脂が化石になったものである。美しいため宝石としても利用されている。映画ジュラシックパークで有名になった、樹脂に昆虫が閉じこめられた「虫入り琥珀」の化石を多数展示した。琥珀に含まれている昆虫は小さいが、展示ケースに取り付けられた移動式ルーペで拡大して見るができるように展示した。体毛の1本1本まで観察でき、まさにタイムカプセルのようであった。子どもから大人まで熱心に観察していた。



第1部 人類と化石のコーナー：このコーナーでは、人類と化石の関わりを展示した。たとえば、燃料として使用する石油や石炭は、「化石燃料」と呼ばれることがあるように、過去の植物が元になったことはよく知られている。また、宝石、薬、石材として、人類は化石を利用してきた。あまり一般には知られていない例として、七輪も化石を用いて作られていることを紹介した。七輪は珪藻土と呼ばれる珪藻（プランクトン）の化石が多く含まれた岩石を削り、焼いて作る。右は地層から切り出した珪藻土のブロック。現在でも高級な七輪は珪藻土から作られている。



第2部 地球と生命の誕生のコーナー：私たちが住む地球が誕生したのは、約46億年前と考えられている。その誕生から単細胞生物、多細胞生物の出現を解説した。カナダ産の40億年前の岩石、酸素を放出した原生动植物（シアノバクテリア）の生活の痕である約20億年前のストロマトライト（床に置いてある標本）などを展示した。奥にある大きな黒い岩石は、シアノバクテリアが放出した酸素が海水中の鉄イオンと結合してできた縞状鉄鉱層。



第2部 海から陸への進出の「古生代の植物化石」のコーナー：陸上植物は約5億年前（オルドビス紀）に上陸し発展してきた。生きていた時の形がわかる地球最古の陸上植物クックソニアを始めとするシルル紀からデボン紀の陸上植物の化石とその復元模型を展示した。正面の壁面にあるのは地球最初の森と言える石炭紀のシダ植物とシダ種子類の森の復元画。右側の壁面はカラミテスの復元図。カラミテスは現在のツクシの仲間の祖先であり、直径30cm、高さ10mにもなった。



第2部 恐竜とアンモナイトの時代のアンモナイトの展示コーナー：アンモナイトは恐竜とともに中生代を代表する化石として知られている。大阪府南部にある和泉山脈に分布する白亜紀の地層からもたくさんのアンモナイトが産出し、ゴードリセラ ス イズミエンゼという和泉山脈の名前が付いたアンモナイトもある。アンモナイトには様々な形態があり、大化石展の公式キャラクター「まきまき太郎」の元にもなった。壁面の展示ケースに段を作って展示した幅10mのアンモナイトの展示コーナーは壮観であり、豊富なコレクションと大きな展示室ならではの展示手法であった。





第2部 恐竜とアンモナイトの時代の「中生代の昆虫化石」の展示コーナー：ドイツのジュラ紀の地層からは保存のよい昆虫の化石が産出している。ついさっきまで動いていたような錯覚を覚えるほど、保存がよい昆虫化石を展示した。右上は、ムカシヤンマの一種の化石で、広げたハネの幅は10cmある。日本、アメリカ、チリ、オーストラリアなどに現存するムカシヤンマのなかまは、生きている化石と言える。



第2部 大氷河時代の「250万年前の足跡化石」のコーナー：滋賀県で見つかったゾウとシカの足跡化石の型取り標本。5m×7mもある。歩いた方向がたどれるゾウの足跡も観察できる。見学者の感想に、「ゾウとシカがたくさんいた様子が目に見える」というものがあった。シカやゾウの骨や歯の化石では語ることができない、生痕化石ならではの魅力である。

ぼくの・わたしのお気に入り化石：ハガキ大の付箋を用意し、見学した子ども達に、「お気に入りの化石」を書いて壁面に貼り付けてもらった。コウガゾウ、ヤベオオツノジカ、アンモナイト、始祖鳥は人気があった。一人一人のお気に入りは異なるので、シカの角、クックソニア、クラゲの仲間など様々な絵が寄せられた。「ハカセからのメッセージ」も貼り付けて展示した。オープン後すぐに、出口付近の掲示板はいっぱいとなり、ワークショップスペースの壁面いっぱいに掲示した。約500枚の絵が寄せられた。



ワークショップ「ぐるぐる消しゴムアンモナイト」：粘土を練り、練った粘土を博物館の標本を元に作成したアンモナイトの型に入れて、粘土にアンモナイトの形と模様を写し取る。その粘土を型から取りだし、お湯でゆでると消しゴムができるワークショップで、とても人気があった。左は参加者が粘土を練っている様子。右はできあがったアンモナイト消しゴム。異なる色の粘土をミックスするため、様々な模様の消しゴム（径約4cm）ができる。アンモナイトに親しむと同時に、模型の意義を考えるワークショップとした。

東日本大震災に直面した遠隔地の博物館として

2011年3月11日、東北沖で発生したその巨大地震の揺れは、五分ほど遅れて大阪にも達し、博物館をぎしぎしと波に揺れる木造船のようにきしませた。当館は西日本自然史系博物館ネットワーク、昆虫担当学芸員協議会を通じて情報収集し、岩手県立博物館らと共同して主として陸前高田市立博物館および同市海と貝のミュージアムを対象に、現地支援、昆虫・植物・化石・貝など各分野の標本修復を行ってきた。さらには、日本博物館協会、文化財レスキュー事業を通じた唐桑漁業センターの液浸標本回収、さらには当館友の会、NPO大阪自然史センター、なにわホネホネ団らと共同しての被災地での子どもワークショップへの支援などを行ってきた。

遠隔地博物館からの支援メニュー

0. バックアップ機能としての標本、研究資料交換や情報共有
1. 情報の収集
2. 被災標本の修復、検討
3. 被災博物館周辺コミュニティへの支援
4. 現地学芸員への支援派遣
5. 隔地の博物館コミュニティから被災地への連帯
6. 記録・今後の検討課題の抽出
7. 復興への支援

遠隔地の博物館ができることは左の8項目に集約されるのではない。当館は西日本ネットの事務局としての中間支援も含め、この大半に関与してきた。西日本ネットとしては震災当初からの情報発信、各館の支援への仲介、さらには現地へ支援に赴く関係者への支援などを行った。この活動により、連携も深まったとも言える。最初の項目を「0」としたのは、この活動が被災以前の日常活動であるからだ。日常の博物館活動こそが、いざという時の連携の基礎であり、被災した場合に全ての情報が失われることを回避する方法である。来るべき南海地震を前に、近畿地方や西日本の各館との日常の連携は改めて重要性を増している。

未曾有の大災害を前に、当館の支援は完了したわけではない。深く関わったからこそ、今後についても責任は重く、我々がしなければいけないことはまだまだ残っている。「6」と「7」はすぐにでも手を付けなければならない項目であり、既に2012年4月30日に中間総括シンポジウムを予定している。その他関連学会などでの議論を主導していく必要があるだろう。既に昆虫担当学芸員協議会を中心に日本昆虫学会における取り組みは始まっている。

南海地震はいずれ起こる、と想定をし、「わが事として」連携のあり方を検討していかなければならない。



有志によるチョウ・ガ類の修復作業



関西トンボ談話会会員によるトンボ類の修復作業



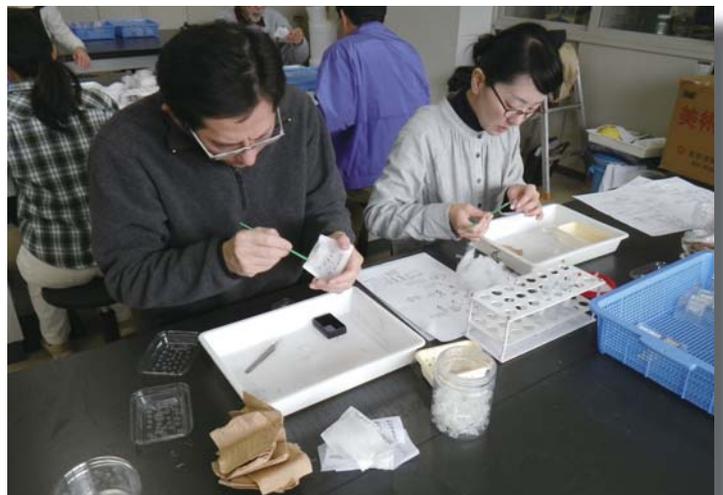
植物標本レスキュー（5月－7月）：鳥羽源藏標本をはじめとする20世紀初頭の三陸地方の植物さく葉標本750点の修復作業。津波により潮と泥をかぶったため、洗浄、除塩、再乾燥とデータベース化を行った。作業には友の会や近畿植物同好会の協力をいただいた。

被災して回収された標本（左）と洗浄、除塩し、再乾燥して台紙を取り換えた標本（右）：台紙にはカビが発生し、中には植物体もカビが生えている標本もあった。ラベルなどは最大限回収し、できる限りの記録をとって、データベース化して岩手県立博物館に返送した。



陸前高田市海と貝のミュージアム所蔵の貝類標本のレスキュー：地震で発生した津波により、海と貝のミュージアムは建物全体が水没し、貝類標本約11万点が流失または浸水する被害を受けた。流失を免れた標本は4月上旬に現地から回収されたが、ラベルが傷んだり、時間経過に伴って標本にカビが発生したりしたため、洗浄・殺菌・乾燥作業を行うことになった。この作業は陸前高田市立博物館、岩手県立博物館、真鶴町立遠藤貝類博物館、及び当館で分担して行うことになり、当館では陸産貝類（柵山龍司コレクション）の微小種約500点を預かり、10月から翌1月にかけて復旧作業を行った。作業は自然史博物館友の会の会員から募ったボランティアの皆さんの手で進められた。

唐桑町漁村センターの液浸標本のレスキュー：唐桑町漁村センター（気仙沼市）では、津波の浸水は免れたものの、強い揺れにより多数の動物液浸標本が転倒し、瓶が破損したり保存液が漏出したりする被害を受けた。文化庁の東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会、及び日本博物館協会からの依頼により、学芸員が現地に派遣され、平成24年1月17日～1月21日に被災標本の搬出作業を行った。標本は仙台市科学館、気仙沼市教育委員会等で修復・整理作業が行われている。



陸産貝類標本の洗浄作業を行う友の会のボランティア



津波堆積物（泥・砂）にまみれた標本の除菌・洗浄

地質・化石標本のレスキュー事業：現地・陸前高田市生出にある陸前高田市立博物館・海と貝ミュージアム仮収蔵施設（旧陸前高田市立生出小学校：平成23年3月末に閉校）において実施された。



ラベルから標本情報を読み取る作業



被災地で開催したワークショップ：博物館活動は標本の保存だけではない。被災博物館の利用者支援として、大阪自然史センターやなにわホネホネ団と協力して、自然史博物館で開催しているワークショップの被災博物館での開催を試みた。三陸地方の博物学者として現地の尊敬を集める鳥羽源藏氏の著述をベースに開発した貝遊び、同地方で多産する化石をモチーフにしたものなど、新たに開発アレンジしたものも実施した。現地の子育てサークル（あそび ma・senka）の協力で実施し、9月、10月に大船渡や陸前高田市、山田町などで開催し、合計で1000人を超える来場者を得た。当該時期は被災者が仮設住宅に入居はしたものの、子どもたちが楽しめる機会が少なく、現地博物館関係者からも歓迎をされた。

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科研費の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろう博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

今年度は、学芸員の個別テーマによる研究をはじめ、市民と協同で進める「大阪を中心とした都市の自然プロジェクト調査」、来年度の特別展準備を兼ねた「大阪湾の総合調査」などを実施してきた。その成果は当館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、講演会を通じて市民に普及した。

また、外部研究資金として文部科学省科学研究費補助金は基盤研究5件（基盤研究B1件、C4件）と若手研究3件の補助を受けた。

I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館 長	山西 良平 (Ryohei YAMANISHI)	
動物 研究室	波戸岡清峰 (Kiyotaka HATOOKA)	主任学芸員
	和田 岳 (Takeshi WADA)	学芸員
	石田 惣 (So ISHIDA)	学芸員
昆虫 研究室	金沢 至 (Itaru KANAZAWA)	主任学芸員
	初宿 成彦 (Shigehiko SHIYAKE)	主任学芸員
	松本吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO)	学芸員
植 物 研究室	佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA)	主任学芸員
	志賀 隆 (Takashi SHIGA)	学芸員
	長谷川匡弘 (Masahiro HASEGAWA)	学芸員

地 史 研究室	樽野 博幸 (Hiroyuki TARUNO)	研究主幹
	川端 清司 (Kiyoshi KAWABATA)	学芸課長
	塚腰 実 (Minoru TSUKAGOSHI)	主任学芸員

第四紀 研究室	石井 陽子 (Yoko ISHII)	学芸員
	中条 武司 (Takeshi NAKAJO)	学芸員

平成24年3月31日現在

II. 研究テーマ

■山西良平（館長）

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 日本の干潟の多毛類フォエナの調査研究
- (3) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査研究

■波戸岡清峰（動物研究室）

- (1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾周辺海域の魚類相の調査

■和田 岳（動物研究室）

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 大阪湾岸の水鳥の分布調査
- (5) 都市の動物の分布についての研究

■石田 惣（動物研究室）

- (1) 軟体動物の生態学・行動学的研究
- (2) 博物館標本から推定する生物相の変遷
- (3) 生物映像のアーカイビングとその活用
- (4) 都市公園の無脊椎動物相と分布
- (5) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相

■金沢 至（昆虫研究室）

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) 昆虫・クモの光周性の研究

■初宿 成彦（昆虫研究室）

- (1) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体も含む）
- (2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
- (3) セミに関する研究
- (4) ツガにつくカサアブラムシとその天敵に関する調査

調査研究事業

■松本吏樹郎（昆虫研究室）

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性，分類，系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

■佐久間大輔（植物研究室）

- (1) 外生菌根性菌類の生態学的研究
- (2) 丘陵地の生物群集の景観生態学的研究
- (3) 二次林植物群集の研究
- (4) 菌類インベントリーの手法と体制
- (5) 博物館情報システムの構築

■志賀 隆（植物研究室）

- (1) コウホネ属（スイレン科）の分類学および生物地理学的研究
- (2) 植物の雑種形成および雑種種分化に関する研究
- (3) 水生植物の保全に関する研究
- (4) 水湿地の植物相に関する研究

■長谷川匡弘（植物研究室）

- (1) 顕花植物の花形態とポリネーターの共進化に関する研究
- (2) 里山環境における開花フェノロジーと訪花昆虫相の特徴
- (3) 希少植物種の保全生物学的研究

■樽野博幸（地史研究室）

- (1) ステゴドン科（長鼻類）の分類と系統に関する研究
- (2) 大阪平野および周辺地域における，鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と，生層序区分に関する研究
- (3) 中国産長鼻類に関する研究
- (4) 長鼻類の足跡化石に関する研究

■川端清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放射虫化石に関する研究
- (3) 現生放射虫に関する研究
- (4) 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) バショウ科果実化石の分類学的研究

■石井陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究

■中条武司（第四紀研究室）

- (1) 干潟・汀線などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 再堆積性火砕堆積物に関する研究

Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館学芸員が研究代表者となったもの

■若手研究（B）

研究課題	研究代表者
クモヒメバチにおける寄主操作の多様性とその進化史に関する研究	松本吏樹郎
（2年間継続の1年目）	（課題番号：23770099）

○10月4日～7日の4日間、福岡県，熊本県に出張し，調査を行った。

○標本からDNA抽出と塩基配列の決定を行った。一部の種について分子データに基づいた系統解析を行った。

■若手研究（B）

研究課題	研究代表者
博物館標本から再構築する日本の干潟生物相の変遷とその保全への活用	石田 惣
（4年間継続の1年目）	（課題番号：23701025）

○鳥取県立博物館、陸前高田市立博物館・海と貝のミュージアム仮収蔵施設に出張し貝類標本の調査を行った。

○男里川河口干潟、和歌川河口干潟、新舞子干潟、愛媛県燧灘沿岸干潟等に出張し地形環境及び生物相の調査を行った。

○国内各地の干潟における過去の生物相に関する文献調査を行った。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
------	-------

博物館標本の種子を用いた絶滅植物 集団の復元と標本管理方法の開発	志賀 隆
-------------------------------------	------

(3年間継続の1年目)	(課題番号: 60435881)
-------------	------------------

- 6月23日、兵庫県三田市に出張し、水生植物の種子サンプルの収集を行った。
- 7月6日～7日の2日間、兵庫県三田市に出張し、水生植物の種子サンプルの収集を行った。
- 7月8日、和歌山県橋本市に出張し、水生植物の種子サンプルの収集を行った。
- 7月13日～15日の3日間、佐賀県、熊本県に出張し、水生植物の種子サンプルの収集を行った。
- 7月28日～29日の2日間、岐阜県、愛知県に出張し、水生植物の種子サンプルの収集を行った。
- 日本植物分類学会第11回大会において研究成果を発表した(3月23日～25日; 吹田市)

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
------	-------

カサアブラムシの虫こぶを用いたトウヒ属 の古植物学的分類システムの構築	初宿成彦
--	------

(3年間継続の3年目)	(課題番号: 21570107)
-------------	------------------

- トウヒ林および露頭での野外調査、また標本保管施設での標本調査を行った。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
------	-------

哺乳類等骨格標本作成サークルの ネットワーク化と普及教育事業への 展開方法の共有化	和田 岳
---	------

(3年間継続の3年目)	(課題番号: 21601019)
-------------	------------------

- ホネの全国ネットワーク「ホネット」を通じて交流。
- ホネホネサミット2011開催。
- 他の博物館や学校教育の現場において、ホネの普及

教育活動を展開できる「ホネホネ出前セット」の作成。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
------	-------

自然離れ克服のために自然史博物館が 地域のコーディネーターとして果たす 新たな役割	山西 良平
---	-------

(3年間継続の2年目)	(課題番号: 226010160001)
-------------	----------------------

- 大阪湾環境再生連絡会が主催する「第3回大阪湾生き物一斉調査」(平成23年6月3日実施)に大阪湾海岸生物研究会と共に参画し、市民団体による調査を博物館の立場でサポートした。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
------	-------

博物館資料を活用した地質現象の 「見える化」実演実験の開発とその 博物館学的意義	川端 清司
--	-------

(3年間継続の2年目)	(課題番号: 22601017)
-------------	------------------

- 9月9日～11日の3日間、茨城大学(水戸市)に出張し、日本地質学会第118年学術大会において研究発表を行った(口頭発表)。
- 24年3月16日～18日の3日間、東北大学(仙台市)に出張し、日本地質学会構造地質部会の緊急例会「社会への発信とリテラシー」に参加し、ポスター発表を行った。
- 12月10日にジオラボ「断層を調べてみよう」を実施した。

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	連携研究者
------	-------	-------

アマチュア菌類学のための 支援情報基盤と遺伝情報つき 地域エキシカータ作成の試み	佐久間大輔・志賀 隆	
--	------------	--

(3年間継続の1年目)	(課題番号: 23300333)
-------------	------------------

- 本郷次雄コレクションの現状調査と公開準備を行った。
- 本郷次雄コレクションの分割寄贈先の探索と状況の確認を行った。
- 菌類バーコーディングに関する予備的な調査として、DNSシーケンサーを導入し、ITS2領域のバーコーディング検討を行った。
- 標本の価値についてアマチュアの理解を得るためのテキスト執筆と公開研究会などを試みた。

VI. 著作活動

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study誌は、ns.と略記した。当館学芸員以外の著者には氏名に*を付した。

【館長】

山西良平 (2011.4) 大阪湾のキタフナムシ. ns.57 (4) :42-44, 56.

山西良平 (2011.7) ご挨拶. the OSTEC 20(3) :1.
今原幸光* (編著)・有山啓之*・石田惣・伊藤勝敏*・大谷道夫*・竹之内孝一*・鍋島靖信*・波戸岡清峰・花岡皆子*・山西良平 (共著) (2011.7) 写真でわかる磯の生き物図鑑. トンボ出版, 271pp.

【動物研究室】

波戸岡清峰 (分担執筆) (2011.7) 写真でわかる磯の生き物図鑑. 今原幸光* (編著), トンボ出版, 271pp.
McCosker, J. E.* , Hatooka, K., Ohnishi, N.* and Endo, H.* (2011.7) . Redescription and designation of a neotype for *Aphthalmichthys kuro* Kuroda 1947, and its placement in *Callechelys* (Anguilliformes : Ophichthidae). Ichthyological Research, 58(3) : 272-277.

日比野友亮*・木村清志*・波戸岡清峰・John E. McCosker* (2011.9) ミサキウナギ *Muraenichthys aoki* (ウナギ目 : ウミヘビ科) は有効種. 2011年度日本魚類学会年会, 講演要旨 : 14.

波戸岡清峰 (2011.10) . シーラカンス. 読売新聞大阪支局, 2011年10月5日朝刊.

波戸岡清峰・小林春平*・小林智* (2011.12) 石川でウキゴリが採集されました. ns. 57(12) :160.

和田岳 (2011.4) 大阪市内の公園のタヌキ. ns. 57 (4) : 9.

和田岳 (2011.5) 身近な鳥から鳥類学 第2回 スズメは減っているの?. むくどり通信(213) :11.

和田岳 (2011.7) 身近な鳥から鳥類学 第3回 ツバメの寝る場所. むくどり通信 (214) :11.

和田岳 (2011.8) プロジェクトU都市の自然調査レポート 都市公園のトカゲ類. ns. 57(8) :13.

小海途銀次郎*・和田岳 (2011.8) 日本鳥の巣図鑑 小海途銀次郎コレクション. 東海大学出版会. 391pp.

和田岳 (2011.9) 身近な鳥から鳥類学 第4回 窓ガラスに衝突する鳥. むくどり通信(215) :10.

和田岳 (2011.11) 身近な鳥から鳥類学 第5回 果実を食べるのは誰?. むくどり通信(216) :10.

和田岳 (2012.1) 身近な鳥から鳥類学 第6回 今年は異常にツグミが少ない?. むくどり通信(217) :10.

和田岳 (2012.3) 身近な鳥から鳥類学 第7回 ヒバリはどこに生き残るのか. むくどり通信(218) :10.

大阪鳥類研究グループ (2012.3) 大阪府のため池に生息する繁殖期の水鳥の分布. 自然史研究 3(12) :167-210.

石田 惣 (分担執筆) (2011.7) 写真でわかる磯の生き物図鑑. 今原幸光 (編著), トンボ出版, 271pp.

Ishida, S. and Tadpole Shrimp Team of Yodogawa River Research Group "Project Y" (2011.9) Environmental factors in the distribution of large branchiopods in Yodogawa river system, Japan - results from an investigation conducted with citizen participation. The 7th International Large Branchiopods Symposium (ILBS-7) Program and Abstracts : 21.

林 勇夫* (監訳)・石田 惣 (訳) (2011.9) 知られざる動物の世界 (5) 単細胞生物・クラゲ・サンゴ・ゴカイのなかま. (World of Animals 21 : Simple and Wormlike Animals, by Amy-Jane Beer, Brown Bear Books, UK) 朝倉書店, 118pp.

石田 惣・西澤真樹子* (2011.11) 80年前の岩手の子どもの貝遊び. ns. 57(11) :6-7.

石田 惣 (2011.12) 漂流ペットボトルの中で成長して出られなくなったジャノメガザミ *Portunus sanguinolentus* (Herbst, 1783) . 福井市自然史博物館研究報告, 58:47-18.

石田 惣・山西良平・大阪湾海岸生物研究会 (2012.2) 大阪湾の岩礁における長期間の生物相調査でわかること. ns. 58(2):2-5.

石田 惣・近江智行*・上村了美* (2012.3) ホソウミニナの稚貝の浮遊行動は長距離分散につながるか? 日本生態学会第59回講演要旨 : 321.

石田 惣 (2012.3) 第4節 亀井戸跡出土の貝類について. In.亀井戸跡 -高松城下における上水施設の調査- (高松丸亀町商店街G街区第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書), 波多野篤 (編), 高松市教育委員会, p.115.

【昆虫研究室】

- 金沢 至 (2011.4) アサギマダラの国間移動. 総論にかえて. 昆虫と自然 46 (4) :2-4.
- 竹内啓一・金沢 至 (2011.5) ウスバシロエダシヤクの黒化型と日周活動性. 第142回日本鱗翅学会近畿支部例会講演要旨 :3.
- 金沢 至 (2011.5) 2010年のアサギマダラ調査成果報告. アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム講演要旨 :11.
- 金沢 至 (2011.7) アサギマダラなどの移動昆虫の最近の話題. 日本鱗翅学会第58回大会講演要旨集 :26.
- 金沢 至・宮武頼夫*・河合正人*・梅崎裕久* (2011.8) 大震災・津波で被災した昆虫関係施設への支援と標本救済. ns. 57 (8) :5-6.
- 藤井千春*・金沢 至 (2011.9) 被災現場での昆虫標本レスキューの報告. 日本昆虫学会第71回大会(松本)講演要旨 :93.
- 金沢 至・宮武頼夫*・河合正人*・梅崎裕久* (2011.9) 震災・津波の被害を受けたトンボ・鱗翅類の標本の救済. 日本昆虫学会第71回大会(松本)講演要旨 :94.
- 金沢 至・春沢圭太郎* (2011.10) イチジクヒトリモドキの北上. ns. 57 (10) :7,16.
- 金沢 至 (2011.10) 2009年のアサギマダラ調査成果報告. やどりが (230) :47.
- 梅崎裕久*・長瀬 翔*・金沢 至・宮武頼夫* (2011.11) 東日本大震災で被災した陸前高田市博のトンボ類標本のレスキュー. 日本蜻蛉学会2011年大会講演要旨 :8.
- 奥田卓也*・広渡俊哉*・寺村定晴*・松本吏樹郎・金沢 至 (2011.10) 大阪府内の都市緑地におけるスズメバチ類の種構成と優占種. 環動昆, 22 :147-184.
- 金沢 至 (2011.10) 博物館との出会いーそれは生物標本展から始まったー. 県下生物標本展示会第60回記念文集 羽ばたきー私たちの県下生物標本展示会ー. 41-46.
- 中塚久美子*・広渡俊哉*・池内 健*・松本吏樹郎・金沢 至 (2011.11) 大阪府内のさまざまな緑地における腐植食性蛾類の多様性(予報)・環境動物昆虫学会第23回大会講演要旨 :9.
- 金沢 至 (2011.12) 海を渡って旅をするチョウ. 特集 旅する自然. グリーンレター (33) :20-22.
- 金沢 至 (2011.12) 2010年のアサギマダラ調査成果報告. アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム要旨. 渡りチョウを調べる会ニュース 5 (1・2) :13.
- 金沢 至 (2012.3) 愛知県伊良湖岬におけるトンボ類の移動. Gracile (72) :40-41.
- 谷 幸三*・金沢 至・土井伸治郎* (2012.3) 大阪府島本町のアカネ類調査会. Gracile(72):72-73.
- 金沢 至 (2012.3) 40周年おめでとうございます. 関西トンボ談話会の40周年と50周年記念の思い出文集 :10.
- 金沢 至 (2012.3) 50周年の門出を祝う. 関西トンボ談話会の40周年と50周年記念の思い出文集 :26.
- Hirowatari, T.* , I. Kanazawa and X. Liang* (2012.3) Four New Species of the Genus *Nemophora Hoffmannsegg* (Lepidoptera, Adelidae) from China. Esakia.(52) :99-106.
- 金沢 至 (2012.3) 愛知県伊良湖岬におけるオオハナアブの南下移動. はなあぶ (33) :4-5.
- Montgomery M.E.* , Shiyake S., Havill N.P.* , Leschen R.A.B.* (2011.5). New Species of *Laricobius* (Coleoptera : Derodontidae) from Japan with Phylogeny and a Key for Native and Introduced Congeners in North America. Annals Entomological Society America 104 :389-401.
- 滋賀県生きもの総合調査委員会(編集)(2011.6) . 滋賀県で大切にすべき野生生物 : 滋賀県レッドデータブック2010年版. 583 pp. (初宿が分担執筆)
- 初宿成彦 (2011.7) 増加し続ける標本/減り続ける収蔵スペースー大阪市立自然史博物館における昆虫標本保管ー. 博物館研究 46 (7) :24-27.
- 大阪市立自然史博物館編 (2011.7) 化石でたどる生命の歴史. 第42回特別展「来て見て感激!大化石展」解説書, 48pp.(分担執筆 : 昆虫化石の部分を担当)
- 初宿成彦 (2011.7) 絵解き検索「日本産ハナノミダマシ」. 第21回 動物調査手法講演会 :9-23. 環境動物昆虫学会.
- 初宿成彦 (2011.7) 最終氷期の北海道の甲虫相. シンポジウム「北方圏の成り立ちと、その昆虫相」. 第2回日本甲虫学会(北海道大学)講演要旨集 :13.
- 初宿成彦 (2011.7) .2011年セミの大発生説? LOUPE(98) :1. シニア自然大学校・講座部本科.
- 初宿成彦 (2011.11) [P-21] トウヒ属樹上に形成されるカサアブラムシ虫こぶの植生史研究への応用.第26回日本植生史学会(弘前大学)講演要旨集 :84.
- 初宿成彦 (2012.11) 多様なセミの多様な発音.宮武頼夫(監修)、環境Eco選書 昆虫の発音によるコミュニケーション :28-38. 北隆館.
- 初宿成彦 (2011.12) .2年で5回も大变身 不思議な虫 カサアブラムシの生態とその退治のはなし.ns. 57(12) :2-5.
- Hayashi M* , Shiyake S. (2011.12) Past distribution of *Plateumaris weisei* (Duvivier) (Coleoptera,

- Chrysomelidae, Donaciinae) at the Last Glacial Maximum in Shiga Prefecture, West Honshu, Japan. *Elytra* (NS) 1 (2) :315-320.
- 初宿成彦 (2012.1) 虫笛-会員の声: 巨大な家屋害虫の展示. *有害都市生物管理* 1 (2) :206.
- 初宿成彦 (2012.3) 日本から記録された *Laricobius* 属 3種について. さやばね NS.(5) :12-16. 日本甲虫学会.
- 富永修*・初宿成彦・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ甲虫班 (2012.3) 淀川水系におけるドロムシ上科甲虫相と分布. 大阪市立自然史博物館研究報告(66) :19-38.
- 富永修*・初宿成彦・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ甲虫班 (2012.3) 淀川水系のヒラタドロムシ相および分布. 大阪市立自然史博物館研究報告 (66) :39-48.
- 初宿成彦 (編) (2012.3) 大阪市立自然史博物館 所蔵甲虫類目録(2) - ゴミムシ類, カミキリムシ科 *Pidonia* 属, ハムシ科 -. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第44集. 372pp.
- 初宿成彦 (2012.3) セミが結んだゼミとミュゼ. 報告者鼎談. シンポジウム「知の融合 町人学者のまち大阪と博物館・大学」記録集: 20-29, 41-50.
- Matsumoto, R. & Broad, G. R.* (2011.2) Discovery of *Rodrigama* Gauld in the Old World, with description of two new species (Hymenoptera: Ichneumonidae: Poemeniinae). *Journal of Hymenoptera Research* 20 : 65-75.
- Takasuka K.* & Matsumoto, R. (2011.5) Lying on the dorsum, a unique host attacking behaviour of *Zatypota albicoxa* (Hymenoptera, Ichneumonidae). *Journal of Ethology* 29 : 203-207.
- Pham N. T.*, Broad G. R.*, Matsumoto R & Wagele W. J.* (2011.6) Two new species of the genus *Chablisea* Gauld et Dubois (Hymenoptera: Ichneumonidae: Pimplinae) from Vietnam. *Biologia* 66 : 1134-1139.
- Takasuka K.* & Matsumoto, R. (2011.6) Infanticide by a solitary koinobiont ichneumonid ectoparasitoid of spiders. *Naturwissenschaften* 98 (6) : 529-36
- Pham N. T.*, Broad G. R.*, Matsumoto R & Wagele W. J.* (2011.10) Revision of the genus *Xanthopimpla* Saussure (Hymenoptera: Ichneumonidae: Pimplinae) in Vietnam, with descriptions of fourteen new species. *Zootaxa* (3056) : 1-67.
- 松本吏樹郎 (2011.3) このハチを探せ! (その1) ドロジガバチの巣. ns. 57 (3) :11-12.
- 松本吏樹郎 (2011.5) 寄主を操り身を守る!? ニッコウクモヒメバチによるクサグモの操作. ns. 57 (5) :2-3.
- 松本吏樹郎 (2011.6) このハチを探せ! (その2) セナガアナバチ. ns. 57 (6) :8.
- 松本吏樹郎・高須賀圭三* (2011.9) ナガアシクモヒメバチ *Longitibia* sp.の寄生習性. 日本昆虫学会第71回大会要旨: 66.
- 高須賀 圭三*・松本吏樹郎・吉田哉*・Putra Nugroho* (2011.9) マダラコブクモヒメバチ *Zatypota albicoxa*のインドネシア初記録および新寄主記録—広域寄主記録の理由— (Hymenoptera. Ichneumonidae, Pimplinae). 日本昆虫学会第71回大会要旨: 59.
- 松本吏樹郎 (2011.10) このハチを探せ! (その3) ヒラアシキバチ. ns. 57 (12) :8.
- 松本吏樹郎 (2011.12) ニジウシトリバガ. ns. 57 (12) :1.
- 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編集) (2011.6) 滋賀県で大切にすべき野生生物: 滋賀県レッドデータブック2010年版. 583pp. (分担執筆)
- 【植物研究室】**
- 佐久間大輔 (2011.4) 絶滅危惧植物のホットスポットとしての里山. 特集 里山をめぐる生物多様性. *ジオフィリア* 7 (2) :36-40.
- 佐久間大輔 (2011.7) 自然史標本のレスキュー. 自然史系博物館の取り組みから. *ミュゼ*(97) : 12-14.
- 佐久間大輔 (2011.11) 自然史系史料の文化財的価値—標本を維持し保全する理由—. *日本生態学会誌* 61 (3) :349-353.
- 佐久間大輔 (2011.12) 西日本自然史系博物館ネットワークはなぜ即応体制を取れたのか. *学術の動向* 2011.12 : 52-53.
- Youn Yeo-Chang*, Liu Jinlong*, Sakuma Daisuke, Kim Kiweon*, Masahiro Ichikawa*, Shin Joon-Hwan* and Yuan Juanwen* (2012.1) Northeast Asia. TRADITIONAL FOREST-RELATED KNOWLEDGE *World Forests* 12 : 281-313
- Ito H. *, Hino T. *and Sakuma D. (2012.3) Species abundance in floor vegetation of managed coppice and abandoned forest. *Forest Ecology and Management* (269) : 99-105.
- 佐久間大輔 (2011.7) 陸前高田市立博物館の植物標本レスキュー. ns. 57(7) :5-7.
- 佐久間大輔 (2011.10) 大阪市立自然史博物館に移管された本郷次雄氏の標本・記録・図譜. ns. 57 (10) :3-5.
- 佐久間大輔 (2012.2) くつわづるについて. ns. 58 (2) :5-7.

- 佐久間大輔・釋知恵子* (2012.2) ワークシートから始まる連携—学芸員・教員・生徒—. 初等理科教育 46(3) :18-21.
- 河原栄*・佐久間大輔・古畑徹*・赤石大輔* (2011.9) 四高時代キノコ蠟模型の再発見. 日本菌学会第55回大会 (札幌) 講演要旨集 : 22.
- 佐久間大輔・今村彰生* (2011.9) 大阪市立自然史博物館へ移管された本郷次雄氏標本庫Hongo Herbariumの標本について (予報). 日本菌学会第55回大会 (札幌) 講演要旨集 : 21.
- 佐久間大輔・今村彰生* (2012.3) アマチュアによる過去の記録と標本情報による地方菌類相とRDB作成の試み. 日本生態学会第59回全国大会 (大津) 講演要旨 : F2-20.
- 松井淳*・福岡泰友*・今村彰生*・佐久間大輔・常俊容子* (2012.3) 高槻市本山寺の森 (暖温帯針広混交林) における32年間の植生変化. 日本生態学会第59回全国大会 (大津) 講演要旨 : P3-108J.
- 佐久間大輔 (2012.3) 里山の生態系変化の中での菌類. 鳥取大学GCOEシンポジウム (大阪) :10.
- 志賀 隆 (2011.9) 植物の新しい分類体系 : APG分類体系ってなに? ns. 57 (9) :2-3.
- Yokogawa M.*, Shiga T., Kaneko S.*, and Isag Y* (2011.9) Development of nuclear microsatellite markers for the critically endangered freshwater macrophyte, *Nuphar submersa* (Nymphaeaceae), and cross-species amplification in six additional *Nuphar* taxa. Conservation Genetics Resources (doi : 10.1007/s12686-011-9528-y) .
- 志賀 隆 (2011.10) トンボに魅せられた昆虫少年が、植物の学芸員に. 県下生物標本展示会第60回記念文集 羽ばたき—私たちの県下生物標本展示会—. 60-66.
- 志賀 隆・長谷川匡弘 (2011.11) 70年ぶりに大阪府でヤマサギソウを確認. ns. 57 (11) :2-4, 12.
- 志賀 隆 (2012.1) 博物館の研究機械の紹介 : DNAシーケンサー. ns. 58 (1) :7.
- 志賀 隆・菅 久* (2012.2) 北摂でシロミノヤブムラサキの分布を確認. ns. 58 (2) :8, 12.
- 志賀 隆・横川昌史*・兼子伸吾*・井鷲裕司* (2012.3) 全個体遺伝子型決定で絶滅危惧種を守る : シモツケコウホネを例にして. ns. 58 (3) :2-4, 12.
- 井鷲裕司*・兼子伸吾*・水谷未耶*・加藤慶子*・伊津野彩子*・高宮正之*・志賀 隆・増本育子*・大竹邦明* (2012) 全個体遺伝子型解析による絶滅危惧植物の保全. DNA多型20 : (印刷中) .
- 長谷川匡弘 (2011.8) 花と動物の深〜い関係. ns. 57 (8) :10
- 【地史研究室】**
- Tsukagoshi M., Momohara A.* and Minaki M.* (2011.4) *Metasequoia* and the life and work of Dr. Shigeru Miki. *Metasequoia* : the Legacy of Dr. Shigeru Miki. Proceedings of the third *Metasequoia* Symposium, Japanese Journal of Historical Botany 19 (1-2) :1-14.
- Tsukagoshi M. (2011.4) Recent progress in paleobotanical and geological studies of *Pinus trifolia* flora. *Metasequoia* : the Legacy of Dr. Shigeru Miki. Proceedings of the third *Metasequoia* Symposium, Japanese Journal of Historical Botany 19 (1-2) :15-24.
- 塚腰 実 (2011.4) 生きている化石メタセコイア. 化石研究会編, 化石から生命の謎を解く 恐竜から分子まで, 34-53. 朝日新聞出版, 朝日選書877.
- 塚腰 実 (2011.6) 様々な保存状態の植物化石と葉の表と裏の化石. ns. 57 (6) :70-73.
- 塚腰 実 (2011.7) 小難しい学芸員のやさしい小咄. ゼンマイ科植物の幹の化石—美しい鉍化石—. ns. 57 (7) :85, 91.
- 塚腰 実 (2011.6) 植物化石のいろいろ. 世界通信社教材学習ニュース (2025) :1.
- 大阪市立自然史博物館編 (2011.8) 化石でたどる生命の歴史. 第42回特別展「来て!見て!感激! 大化石展」解説書. 分担執筆. 大阪市立自然史博物館. 48pp.
- 塚腰 実 (2011.12) 4億年前の植物—陸上に進出した植物のすがた—. 世界通信社教材学習ニュース (2039) :1.
- 川端清司 (2011.4~2012.3)「上町断層」って何だろう? —地震と活断層— うえまち (NPO法人まち・すまいづくり発行 2011年5月号~2012年4月号連載)
- 川端清司 (2011.5) 微化石って何? (小難しい学芸員のやさしい小咄) ns. 57 (5) :7.
- 川端清司 (2011.8) 放散虫化石 バルパス物語 ns. 57 (8) :2-4.
- 川端清司・石井陽子・塚腰 実・中条武司 (2011.9) 地質学研究を普及するツールとしての「ジオラボ」の実施. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会 (水戸) 講演要旨集 (セクションB) :147.
- 川端清司 (2012.3) 「東北太平洋沖地震および津波」で被災した陸前高田私立博物館の地質標本レスキュー ns.58 (3) :5-7.
- 樽野博幸 (2011.6) 小難しい学芸員のやさしい小咄 ヤベオオツノジカとヘラジカ. ns. 57 (6) :9.

樽野博幸 (2011.7) 地下鉄堺筋線の工事で見つかった
ゾウの牙の化石. ns. 57 (7) :2-4.

樽野博幸・釋千恵子・佐久間大輔・寺田麻紀*・小島ま
み* (2012.3) ミニガイドNo.24 ナウマンゾウ お
おさかにいたゾウのはなし:32p.

【第四紀研究室】

Yamanaka, K. *, Nakaguchi, Y. *, Hasegawa, T. *,
Masuda, H. * Nakajo, T. and Water analysis team
Yodogawa River Group Project Y, Osaka Museum
of Natural History (2011.5) Regional distribution
of major chemical component in the Yodo River
System. Abstract, IUPAC International Congress
on Analytical Sciences (ICAS 2011), Kyoto,
Japan : 25P196.

山下翔大*・中条武司・成瀬 元* (2011.5) 伊勢湾櫛
田川河口干潟の碎屑物輸送パターン:粒度傾向モデ
ルと観測との比較. 日本地球惑星科学連合2011年大
会,幕張メッセ:SCG064-P01.

Yamashita, S. *, Naruse, H. *, Nakajo, T. (2011.7) ,
Sediment transport pathways on the modern
microtidal sand flat reconstructed by the new
method of sediment trend analysis (P-GSTA) :
Case studies of Kushida River and Obitsu River
deltas, Japan. Jour. Sediment. Soc. Japan. 70 (1) :
31-36.

益田晴恵*編著 (2011.8) 都市の水資源と地下水の未
来. 京都大学出版会, 264pp. (中条が第4章 水環境
を題材とした環境教育への取り組み を分担執筆)

中条武司 (2011.8) 行事の記録 友の会合宿「淡路・
成ヶ島」報告. ns. 57 (8) :103.

山中康平*・中口 讓*・益田晴恵*・中条武司
(2011.9) 塩基性河川水の化学的特徴. 2011年度日
本地球化学会年会講演要旨:3P21.

中条武司・趙 哲済* (2011.9) 大阪平野西部における
古墳時代中期の汀線堆積物. 日本地質学会第118年
学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会
(水戸) 講演要旨集 (セクションB):114.

佐藤隆春・中条武司・和田穰隆*・鈴木桂子*
(2011.9) 中新世大規模火砕流堆積物の遠地での層
序と堆積相:奈良市石仏凝灰岩層と室生火砕流堆積
物. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学
会2011年年会合同学術大会 (水戸) 講演要旨集 (セ
クションB) :191.

Yamashita, S. *, Naruse, H. * and Nakajo, T.
(2011.12) Sediment transport pathways on the
modern microtidal sand flat : comparison between
grain-size trend model and tracer experiment.
Abstract, 2009 AGU (American Geophysical

Union) Fall Meeting, San Francisco, California,
USA : EP33A-0910.

中条武司・佐藤智之*・山下翔大* (2011.12) 潮流流路
およびそのあふれ出し堆積物が干潟堆積作用に与え
る影響:瀬戸内海西部、曾根干潟の例. 日本堆積学
会2011年長崎大会プログラム・講演要旨:94.

趙 哲済*・中条武司 (2011.12) 西大阪平野における
縄文時代晩期~古墳時代の沿岸環境の変遷. 日本堆
積学会2011年長崎大会プログラム・講演要旨:67.

山下翔大*・成瀬 元*・中条武司 (2011.12) 現世干潟
環境における堆積物輸送:粒度傾向モデルと観測と
の比較. 日本堆積学会2011年長崎大会プログラム・
講演要旨:97-98.

山下翔大*・中条武司・西田尚央*・成瀬 元* (2012.2)
河口付近における洪水起源堆積物の特徴と堆積様式
-2009年10月 伊勢湾櫛田川河口干潟の例-. 堆積
学研究 70 (2) :81-92.

石井陽子 (2012.12) 火山ガラスの形のひみつ.
ns.57 :7.

**VII. 各種委員・役員・非常勤講師
・その他**

波戸岡

日本魚類学会評議員

和田

日本鳥学会 庶務幹事

日本生態学会近畿地区会委員

石田

環境省モニタリングサイト1000沿岸域部会委員

(磯分科会代表)

日本ベントス学会自然史学会連合派遣委員

軟体動物多様性学会 Molluscan Diversity 編集委員

動物行動の映像データベース運営委員

金沢

日本昆虫学会電子化推進委員

日本環境動物昆虫学会評議員

日本鱗翅学会近畿支部幹事

渡りチョウを調べる会HP・企画担当

大阪市立大学非常勤講師「生物学実験B」

初宿

日本昆虫学会評議員

日本甲虫学会評議員

日本環境動物昆虫学会生物保護とアセスメント手法

研究部会運営委員

松本

日本昆虫学会 評議員

志賀

水草研究会幹事

絶滅危惧植物主任調査員（大阪府）

岐阜市自然環境アドバイザー

長谷川

大阪城公園生き物環境保全活用策検討会委員（大阪市）

川端

日本地質学会代議員、日本地質学会2012年大阪大会準備委員（普及担当）

地学団体研究会大阪支部運営委員

塚腰

化石研究会運営委員

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学教務部非常勤講師「大阪の自然」

中条

日本地質学会代議員

日本第四紀学会教育アウトリーチ委員会委員

地学団体研究会大阪支部運営委員

Ⅷ. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成23年度に受け入れた外部研究者は次表のようである。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

大石久志（2011）*Oedenops flavitarsis*について. はなあぶ（32）：11-12.

大石久志（2011）*Discomyza maculipennis*の採集記録. はなあぶ（32）：13-14.

大石久志・篠木善重（2011）*Plecia membranifera*本州に産す. はなあぶ（32）：9-10.

大石久志（2011）ハナアブ界のこれまでと今後. 昆虫と自然 46(6)：2-3.

大石久志（2011）ハナアブー小さな虫の大きな役割ー私たちの自然（572）：61-17.

Ohishi H., S. Shiyake, Y. Miyatake, A. Lamb & M.E. Montgomery（2011）Initial survey of predacious Diptera on Hemlocks in Japan. In : McManus, Katherine A; Gottschalk, Kurt W., eds. 2010.

Proceedings. 21st U.S. Department of Agriculture interagency research forum on invasive species 2010; 2010 January 12-15; Annapolis, MD. Gen. Tech. Rep. NRS-P-75. Newtown Square, PA : U.S. Department of Agriculture, Forest Service, Northern Research Station : 114-115.

奥田尚（2011）狛犬・基礎の石材と石工. 勝部明生先生喜寿記念論文集：357-367. 勝部明生先生喜寿記念論文集刊行会.

奥田尚（2011）縄文式土器の表面にみられる砂礫、石器の石種とその採石地. 榎原考古学研究所研究成果第11冊 重要文化財榎原遺跡出土品の研究：409-450. 榎原考古学研究所.

奥田尚（2011）高台・峰寺瓦窯採取瓦の表面にみられる砂礫. 榎原考古学研究所紀要考古学論叢 第34冊：34-44. 榎原考古学研究所.

奥田尚（2011）飛鳥京跡における使用石材と出土土製品の表面にみられる砂礫. 奈良県立榎原考古学研究所調査報告 第108冊 飛鳥京跡：109-117. 奈良県立榎原考古学研究所.

奥田尚（2011）生駒宝山寺獅子閣の石材調査. 重要文化財 宝山寺獅子閣修理工事報告書：113-122. 奈良県教育委員会.

奥田尚（2011）養寿寺旧蔵および光明院寄託の石棺について. 堺市博物館館報（30）：30-35. 堺市博物館.

奥田尚（2011）小奈辺陵墓参考地の葺石石材の石種とその採石地. 書陵部紀要（62）（陵墓編）：87-93. 宮内庁書陵部.

奥田尚（2011）埴輪の砂礫・石室内の石材からみた物集女車塚古墳. 向日市埋蔵文化財調査報告書 第88集：261-267.（財）向日市埋蔵文化財センター.

奥田尚（2011）平石古墳群の被葬者. 堀田啓一先生喜寿記念献呈論文集：65-84. 堀田啓一先生喜寿記念論文集作成委員会.

佐藤隆春・田結庄良昭（2011）住民と共に地史の見方で震災対策と復興を考える. 地学団体研究会第65回総会講演要旨・巡検案内書：64-65.

佐藤隆春・八尾 昭・山本俊哉（2011）中新世中期、熊野酸性火成岩類の火山豆石凝灰岩から産出した放散虫化石. 地学団体研究会第65回総会講演要旨・巡検案内書：96.

佐藤隆春・中条武司・和田穰隆・鈴木桂子（2011）中新世大規模火砕流堆積物の遠地での層序と堆積相：奈良市石仏凝灰岩層と室生火砕流堆積物. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会（水戸）講演要旨集（セクションB）：191.

室生団体研究グループ（佐藤隆春・古山勝彦・茅原芳

正・別所孝範・山本俊彦(2011) 不均質なレオモルフィック・イグニンプライト：室生火砕流堆積物基底相の産状. 地球科学, 65: 185-197.

室生団体研究グループ(佐藤隆春・古山勝彦・別所孝範・茅原芳正・山本俊哉)(2011) デイサイトマグマと流紋岩マグマが混合・噴出した大規模火砕流堆積物：中新世室生火砕流堆積物に含まれるデイサイト質本質岩片. 日本火山学会講演予稿集 2011年度秋季大会: 76.

佐藤隆春・山本俊哉(2011) 熊野酸性岩類, 神ノ木流紋岩を構成する凝灰岩と溶岩. 日本火山学会講演予稿集 2011年度秋季大会, 161.

Sugamori, Y. (2011) Late Permian radiolarians from the Ajima Formation of the Ultra-Tamba Terrane in the Sasayama area, southwest Japan. Palaeoworld 20: 158-165.

菅森義晃・亀高正男(2011) 福井県小浜市西部のジュラ紀古世放散虫化石を産する珪長質凝灰質泥岩の帰属. 日本地質学会第118年学術大会講演要旨: 203.

竹村静夫・竹村厚司・植田一男・菅森義晃(2011) 兵庫県中東部, 超丹波帯柏原層からの放散虫化石(予報). 日本地質学会第118年学術大会講演要旨: 203.

菅森義晃・亀高正男(2011) 福井県小浜市西部の珪長質凝灰質泥岩から産出したジュラ紀古世放散虫化石. 地質学雑誌 (117): 617-624.

河合俊郎・高田陽子・佐藤 崇(2011) キホウボウ科魚類の系統関係. 2011年度日本魚類学会年会, 講演要旨: 67.

高田陽子(2012) タツノオトシゴにはホネがある一風変りな体の中身とのできかた一. どうぶつと動物園, 公益財団法人東京動物園協会, 平成24年冬号: 26-29.

鳴橋直弘(2012) バラ科植物の紫外線写真図鑑. NPO大阪自然史センター, 大阪. 451pp.

HAYASHI, Hisakazu (2011) A new subspecies of *Tajuria matsutaroi* (Lepidoptera, Lycaenidae) from Leyte Is., the Philippines. Transactions of the Lepidopterological Society of Japan 62(1): 33-34.

HAYASHI, Hisakazu (2011) A new record of male of *Hypolycaena toshikoe* from Mindoro Is. in the Philippines (Text in Japanese). YADORIGA (228): 32-33.

伊谷 行・山田ちはる・渡部哲也(2011) 1930年代におけるオオシロピンノによるムラサキイガイの利用 - 京都大学瀬戸臨海実験所所蔵標本から -. 黒潮圏科学 4: 169-174.

表1. 平成23年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
厨子雅人	研究生	同志社大学・ 光田重幸准教授	志賀 隆
石井久夫	外来研究員	本人	中条武司・ 石田 惣
石田路子	外来研究員	本人	石田 惣
市毛勝義	外来研究員	本人	松本吏樹郎
稲本雄太	外来研究員	本人	金沢 至
今村彰生	外来研究員	本人	佐久間大輔
大石久志	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大塚公雄	外来研究員	本人	金沢 至
岡出朋子	外来研究員	本人	石田 惣
奥田 尚	外来研究員	本人	川端清司
木村史明	外来研究員	本人	金沢 至
小郷一三	外来研究員	本人	山西良平
佐藤隆春	外来研究員	本人	中条武司・ 川端清司
篠川貴司	外来研究員	本人	石田 惣
清水裕行	外来研究員	本人	金沢 至
菅森義晃	外来研究員	本人	川端清司
高田陽子	外来研究員	本人	波戸岡清峰
田村美美子	外来研究員	本人	金沢 至
長江真紀子	外来研究員	本人	石田 惣
鳴橋直弘	外来研究員	本人	志賀 隆
花崎勝司	外来研究員	本人	波戸岡清峰
林 勇夫	外来研究員	本人	山西良平
林 寿一	外来研究員	本人	金沢 至
日比伸子	外来研究員	本人	金沢 至
前田哲弥	外来研究員	本人	佐久間大輔
松江実千代	外来研究員	本人	塚腰 実
丸井英幹	外来研究員	本人	志賀 隆
道盛正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
矢代敏久	外来研究員	本人	松本吏樹郎
山中みのり	外来研究員	芥川緑地資料館 ・田口圭介館長	金沢 至
渡部哲也	外来研究員	本人	石田 惣

資料収集保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は冷凍燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、研究・展示活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

23年度に寄贈を受けた主なコレクションは以下の通りである。西垣外氏鳥類コレクション（108点）、西表島の鳥（84点）、四国地方産チョウ類等（9043点）、ナカスジオオハリアリパラタイプ（3点）、東南アジア産コガネムシホロタイプ（1点）、中国産および奄美大島産ハネカクシタイプシリーズ（17点）、マツタロウタカネフタオシジミ新亜種タイプシリーズ（2点）、日本産オサムシ（2500点）、日本産植物標本（児玉コレクション）（651点）、大阪市及び兵庫県三田市の公園、都市部に生育する植物（544点）、九州産シダ植物（217点）、西川一郎採集近畿地方産植物（2,462点）、岡山県成羽層群産植物化石（200点）。平成23年度末の総資料数は約149万点である。

災害時の緊急対応として、東日本大震災によって大きな被害を受けた被災地の博物館および類似施設の標本レスキュー事業に取り組んだ。被災した標本の修復作業を分担して引き受けるだけでなく、（NPO）西日本自然史系博物館ネットワークや昆虫担当学芸員協議会の事務局館として、現地の岩手県立博物館と各地の自然史系博物館をつなぐネットワークの中核として機能し、また現地におけるレスキュー事業にも参加し被災地支援の活動を行ってきた。以下列挙する。

- ・岩手県陸前高田市立博物館および同市海と貝のミュージアム所蔵標本の修復（植物押し葉標本、昆虫、貝類:当館で修復作業）
- ・岩手県陸前高田市立博物館の地質標本（現地でのレスキュー事業）
- ・宮城県気仙沼市唐桑町漁村センターの海棲生物標本（現地でのレスキュー事業）
- ・被災地岩手県の博物館と協力して子供ワークショップ事業の実施（なにわホネホネ団・NPO大阪自然史センターとの共同事業）

I. 購入標本

■昆虫研究室

南米コロンビア産甲虫 1519点

■地史研究室

黄鉄鉱に置換されたアンモナイト
（ロシア産、ジュラ紀） 1点
バキュリテス（カナダ産、白亜紀） 1点

アンモナイト（カナダ産、白亜紀） 1点
しのぶ石（ドイツ産、ジュラ紀） 1点

■動物研究室

II. 寄贈および交換標本

外国産カンムリワシ他 3点
溝口平八郎・溝口ユリ子氏
岸和田市のイノシシ他 7点 白川 陽子氏
西垣外氏鳥類コレクション 108点
西垣外正行・西垣外誠子氏
長野県のカケス他 5点 池田 知子氏
名張市のアナグマ 1点 新保 満子氏
ミニブタ 1点 藤井 保聡氏
丹波市のニホンジカ 1点 米澤 里美氏
東住吉区のタヌキ 1点
長居パークセンター
和歌山県のタヌキ 1点 酒田千佳子氏
三重県のタヌキ 1点 運天 政元氏
兵庫県のアライグマ 1点 畦布 真人氏
奈良県のトラツグミ 1点 檀原市昆虫館
岸和田市のオシドリ 1点 小牧 由雅氏
堺市のトラツグミ 1点 左木山祝一氏
兵庫県のイカル 1点
松崎 猛・松崎 妙子氏
住吉区のシロハラ 1点 三輪 真悟氏
東淀川区のヒヨドリ 1点 小林 一皓氏
岬町豊国崎の海産無脊椎動物 13点
大阪湾海岸生物研究会
洲本市成ヶ島・熊田海岸の海産無脊椎動物 39点
大阪市立自然史博物館友の会・
国立公園成ヶ島を美しくする会
岬町明神崎の海産無脊椎動物 1点
大阪湾海岸生物研究会
三重県のアサリ・シオフキ 5点
佐久間綾音・佐久間結里香氏
池田市のシカ 1点 香川万里子氏
新潟県のハツカネズミ 1点 高田 幸作氏
和歌山市戎崎の海産無脊椎動物 2点
大阪湾海岸生物研究会
岬町長崎の海産無脊椎動物 3点
大阪湾海岸生物研究会
愛媛県の無脊椎動物 10点
大阪市立自然史博物館友の会

資料収集保管事業

和歌山市城ヶ崎の海産無脊椎動物	6点		鶴見区のノネコ	1点	三浦 隆紀氏
		大阪湾海岸生物研究会	豊中市のツグミ	1点	植本 拓治氏
和歌山市城ヶ崎の海産無脊椎動物	2点		和歌山県のヒヨドリ	1点	浦野 信孝氏
		大阪湾海岸生物研究会	青森県のハタネズミ	1点	西澤真樹子氏
和歌山市田倉崎の海産無脊椎動物	1点		阪南市のフナクイムシ	1点	大阪湾見守りネット
		大阪湾海岸生物研究会	白浜町の海産無脊椎動物	23点	大阪湾海岸生物研究会
神戸市のサワガニ・スジエビ	2点	藤本龍之介氏	三重県のスナメリ	1点	橘 麻紀乃・西澤真樹子氏
岬町豊国崎の海産無脊椎動物	1点		東住吉区のキジバト	1点	小原もも乃氏
		大阪湾海岸生物研究会	天王寺動物園のライオン	1点	天王寺動物園
福井県のシュレーゲルアオガエル他	5点	西澤真樹子氏他	京都府のテン	1点	米澤 里美氏
和歌山市城ヶ崎の海産無脊椎動物	10点		兵庫県のハクビシン	1点	清水 裕行氏
		大阪湾海岸生物研究会	岸和田市のイノシシ・マガモ	2点	白川 陽子氏
兵庫県のジネズミ他	23点	大石 玲子氏	兵庫県の鳥	2点	堺 昭生氏
堺市のアオサギ	1点	浦野 信孝氏	北海道のアライグマ	3点	野見山朋秀氏
北区の鳥	2点		兵庫県のアライグマ	1点	畦布 真人氏
		積水ハウス環境推進部	中央区の鳥	2点	積水ハウス環境推進部
三重県のスナメリ・ミズナギドリ類	3点	宮越 和美氏	天王寺区のコルリ	1点	高倉 耕一氏
堺市のカラス	1点	下湯瀬可奈子氏	横浜市のプレーリードッグ	1点	岸辺 千津氏
兵庫県のイタチ	1点	阿久津淳子氏	北区の鳥	4点	積水ハウス環境推進部
和歌山県のイタチ	1点	矢田部典子氏	三重県のキツネ	1点	運天 政元氏
奈良県のジネズミ・ハツカネズミ他	9点		東住吉区のタヌキ	1点	長居パークセンター
		河原 和子・河原 風花氏	能勢町のタヌキ	1点	上條 健一氏
河内長野市のテン	3点	佐藤 隆春氏	能勢町のタヌキ	1点	上條 健一氏
洲本市のテン	1点		熊本県のタヌキ	1点	内貴 章世・西澤真樹子氏
		麻野 浩・下湯瀬可奈子・下湯瀬夏生氏	東住吉区のハシボソガラス	1点	鳥山奈々瑚氏
能勢町のテン	1点	上條 健一氏	奈良県のカワウ	1点	牛田 博氏
奈良県のアナグマ	1点	河原 風花氏	岸和田市のネコ	1点	
奈良県のテン	1点	伊藤ふくお氏			小牧 由雅・原出 涼平・前井 優輝氏
能勢町のテン	1点	上條 健一氏	河内長野市のイソヒヨドリ	1点	岩崎 佳子氏
住吉区のネコ	1点	鳥山 優氏	三重県のスナメリ	1点	宮越 和美氏
大分県のアナグマ	1点		北区の鳥	11点	積水ハウス環境推進部
		丹生 忠嗣・丹生 秋子氏	兵庫県のニホンジカ	1点	米澤 里美氏
大分県のスッポン	1点	丹生 忠嗣氏	奄美大島のヨミノオサガニ	7点	岸野 底氏
金剛山のヤマカガシ	1点	盛 陽子氏	奈良県のタヌキ	1点	前田 一郎氏
沖縄県のシロハラ他	3点	山田虹太郎氏	豊中市のハシブトガラス	1点	森田 邦利氏
兵庫県のキクガシラコウモリ	1点	浦野 信孝氏	藤井寺市のハシボソガラス	1点	井関 浩光氏
滋賀県のハツカネズミ	1点	林 勇夫氏	兵庫県のシロハラ	1点	道盛 正樹氏
奈良県のクマネズミ	1点	丸山健一郎氏	住吉区のシロハラ	1点	三輪 真悟氏
青森県のヒミズ	1点	西澤真樹子氏	三重県のマダラシロハラミズナギドリ	3点	宮越 和美氏
長野県のアカネズミ	1点				
		西澤真樹子・松浦 宣弘氏			

河内長野市のクマタカ	1点	小林 春平氏	栃木県のカワシンジュガイ	1点	
河南町のキジ	1点	都 基学氏	西澤真樹子・嶋崎 由海・嶋崎 結氏		
三重県のタヌキ	2点	運天 政元氏	兵庫県のヌートリア	1点	米澤 里美氏
三重県のハシボソミズナギドリ他	16点	宮越 和美氏	兵庫県のカワセミ他	9点	米澤 里美氏
北区の鳥	6点		東住吉区のカワラヒワ	1点	西澤真樹子氏
			松原市のタヌキ	1点	井関 浩光氏
			京都府のニホンジカ	3点	藤原 誉氏
奈良県のテン	1点	河原 風花氏	北海道のコミズク	1点	中村眞樹子氏
岬町豊国崎のキイロイソカイメン	1点	大谷 道夫氏	北海道のスズメ	1点	小野寺 歩氏
ポニー	1点	藤井 保聡氏	兵庫県のイノシシ他	6点	米澤 里美氏
奈良県のタヌキ	1点		天王寺動物園のバーバリーシープ他	2点	天王寺動物園
		河原 風花・河原 和子氏	茨木市のイタチ	1点	浜口 美幸氏
阿倍野区のネコ	1点		愛媛県の鳥	3点	小林 朋子氏
		勾梅 咲月・雨堤 萌生氏	奈良県のカイツブリ他	3点	安井 洋子氏
高槻市のヌートリア・イタチ	4点	あくあびあ芥川	柏原市のフクロウ	1点	木下 進氏
埼玉県のタヌキ	1点	長畑 直和氏	北海道のコガラ	1点	杉之原専司氏
盛岡市のタヌキ	1点	宮野 真一氏	岸和田市のムクドリ他	2点	小牧 由雅氏
一関市のタヌキ	2点		能勢町のイタチ	1点	上條 健一氏
		西澤真樹子・山田虹太郎氏	京都府のニホンジカ	3点	藤原 誉氏
枚方市のアオバト	1点	山本 仁絵氏	大阪府のアライグマ	5点	
寝屋川市のハシボソガラス	1点	山内 ゆめ氏			大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課 野生動物グループ
三重県のオナガガモ他	3点	宮越 和美氏	滋賀県のアライグマ	1点	林 和典氏
北海道のハシボソガラス	3点	中村眞樹子氏	藤井寺市のハシブトガラス	1点	井関 浩光氏
三重県のニホンザル他	2点	宮越 和美氏	マダガスカル動物	15点	富永 修氏
東大阪市のハイタカ	1点	奥田 幸男氏	浮標付着等のフジツボ	265点	山口 寿之氏
阪南市のスジイルカ	1点	三宅 壽一氏	伊勢・志摩・南紀の貝類	402点	松村 勲氏
イヌ?の上顎先端部骨格	1点	杉野 重明氏	小豆島町海産無脊椎動物	38点	
高槻市のイノシシ	1点	藤田 芙美氏			大阪湾海岸生物研究会
阪南市のコガモ	1点	三宅 壽一氏	能勢町のアライグマ	1点	上條 健一氏
中央区のキビタキ	1点	浅田 信子氏	滋賀県のタヌキ	1点	阿部 勇治氏
北区のモズ	1点		兵庫県のダイサギ	1点	米澤 里美氏
			北海道のハシボソガラス	1点	中村眞樹子氏
		積水ハウス環境推進部	四條畷市のキジ	1点	
泉佐野市のシジュウカラ他	5点				西畑 敬一・太田 理氏
		大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課 野生動物グループ	京都府のニホンジカ	3点	藤原 誉氏
京都府のスズガモ	1点	北垣 和也氏	兵庫県のニホンジカ他	2点	米澤 里美氏
滋賀県のクマ・イノシシ	2点	浜口 美幸氏	泉佐野市のタヌキ	1点	浦野 信孝氏
大阪府のアライグマ	5点		豊中市のスズメ	1点	大矢 樹氏
		大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課 野生動物グループ	徳島県のカワラヒワ	1点	平山 聖人氏
鹿児島県のアオウミガメ	1点	高山真由美氏	東住吉区のキジバト	1点	鳥山奈々瑚氏
奈良県のハクビシン	1点	西澤真樹子氏	兵庫県のハイタカ	1点	高津 一男氏
宮城県のアカウミガメ	1点	西澤真樹子氏	能勢町のキビタキ	2点	河原美也子氏
東住吉区のハシブトガラス	1点	佐竹 遊沙氏			
阪南市のヤクシマダカラ	3点	三宅 壽一氏	■昆虫研究室		
端脚類パラタイプ他	14点	有山 啓之氏	四国地方産チョウ類等	9043点	竹東 正孝氏
端脚類ホロタイプ他	48点	有山 啓之氏			

資料収集保管事業

ナカスジオオハリアリ (パラタイプ) 3点 矢代 敏久氏
 日本および海外産昆虫 2507点 山根 正気氏
 日本産ハエ目 1211点 小泉 憲治氏
 北米産甲虫 28点

バージニア工科大学昆虫標本館

中国産ハネカクシ (タイプシリーズ) 3点 林 靖彦氏
 美方高原産水生昆虫 29点 谷田 一三氏
 日本産昆虫 434点 春沢圭太郎氏
 インドネシアおよび台湾産昆虫 17点 大内和太郎氏

日本産ハチ 19点 大内和太郎氏
 日本産オサムシ 2500点 富永 修氏
 国内外産甲虫 430点 富田 寿男氏
 東南アジア産コガネムシ (ホロタイプ) 1点 松本 武氏

奄美大島産ハネカクシ (タイプシリーズ) 14点 林 靖彦氏
 舞鶴市産セスジユミアシゴミムシダマシ 2点 黒田 悠三氏

北海道産ヨシダヒメハナノミ 2点 小野寺謙介氏
 ベニヒカゲ (*Erebia*) 属 104点 石田 誠治氏
 国内外産甲虫と双翅目昆虫 1260点 春沢圭太郎氏
 台湾産コガネムシ類等 322点 大内和太郎氏
 北海道産ニセモンキマメゲンゴロウ 2点 堀 繁久氏

マツタロウタカネフタオシジミ新亜種 (タイプシリーズ) 2点 林 寿一氏
 中国産ケナガニイニイ 5点 有田 豊氏
 イシズチヘリハネムシ (ホロタイプ) 1点 斎藤 昌弘氏

■植物研究室

寄贈および交換 (*) 標本

Vietnam産Quercus 1点 富永 修氏
 USA産Tsuga, 日本産Picea 9点 初宿 成彦氏
 ヤクタネゴヨウ、和歌山県産外来植物 5点 村瀬ますみ氏

奈良県五條市産セイヨウヒキヨモギ 1点 丸山健一郎氏
 ヒメレンゲ (奈良県東吉野村) 1点 石田 惣氏
 サンショウモ、ミズハコベ 2点 和田 岳氏
 アリマウマノスズクサ 1点 藤井 俊夫氏
 ヤマアワ 1点 松本 啓志氏
 兵庫県産植物標本 260点

頌栄女子短期大学*

ヤマサギソウ、イヌヌマトラノオ 2点 有川佳代子氏

ミヤコミズ (東大阪市産) 1点 池田 信雄氏
 カサスゲ、クロアブラガヤ 2点 春沢圭太郎氏
 近畿産植物標本 22点 植村 修二氏
 奈良県産植物標本 138点 川端 一弘氏
 日本産植物標本 (児玉コレクション) 651点 追手門学院

チシャノキ、アレチニシキ (大阪市産) 2点 藤井 俊夫氏

大阪市及び兵庫県三田市の公園、都市部に生育する植物 544点 藤井 俊夫氏
 金剛山植物標本 275点 田中 光彦氏
 日本産植物標本 509点

東北大学植物園*

大阪南部シダ標本 486点 辻井 謙一氏
 栃木県産水生植物標本 5点 杉田 勇治氏
 竹下英一氏書簡コレクション 149点 竹下 功氏
 ミズトラノオ、タコノアシ 4点 加納 康嗣氏
 兵庫県産植物標本 84点 小林 禧樹氏
 九州産シダ植物 217点

国立科学博物館*

京都府産植物標本 265点
 大本花明山植物園*
 日本産植物標本 67点 梅原 徹氏
 北河内産植物標本 138点 田中 光彦氏
 北河内産植物標本 4点 木村 雅行氏
 西川一郎採集近畿地方産植物 2462点 近畿植物同好会

金剛山植物標本 159点 近畿植物同好会

■地史研究室

エジプト産ヌムリテス 前島 渉氏
 魚化石 1点 溝口平八郎・溝口ユリ子氏

ラコレピス 4点 杉本 節郎氏

高知県産および愛媛県産化石・岩石 5点 水野 岩根氏
 岡山県成羽層群産植物化石一式 片山 正彦氏

■第四紀研究室

大阪市内ボーリング資料 16件 都市整備局

Ⅲ. 館員による資料収集

■動物研究室

担当学芸員は、波戸岡…H、和田…W、石田…Iと略記する。

大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産魚類を採集 (4、5月、H)

兵庫県洲本市由良で海産魚類を採集 (4、5月、H)

大阪府阪南市で海産魚類を採集 (5月、H)	5月19・24・26日 京都府八幡市 昆虫一般 (S)
香川県小豆島町・土庄町で魚類を採集 (7月、H)	5月20日 平野区 昆虫一般 (S)
大阪府柏原市の石川で淡水魚類を採集 (7月、H)	5月22日 滋賀県大津市びわ湖バレイ
大阪市都島区大川で淡水魚類、爬虫類を採集 (8、9月、H)	アサギマダラ (K)
大阪府阪南市でイルカの種類を採集 (12月、W)	5月25日 枚方市淀川河川敷 昆虫一般 (M)
大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集 (4～6月、I)	6月1・6日 京都市京大上賀茂演習林
兵庫県洲本市由良で海産無脊椎動物を採集 (4～5月、I)	ツガ林の昆虫 (S)
大阪府阪南市で海産無脊椎動物を採集 (5月、I)	6月2日 高槻市中畑 ツガ林の昆虫 (S)
男里川河口(大阪府阪南市)・阪南市沖でホソウミニナ他を採集 (5～11月、I)	6月3日 神戸市森林植物園・奈良市若草山
和歌山県白浜町で海産無脊椎動物を採集 (6月、I)	ツガ林の昆虫 (S)
兵庫県たつの市で海産無脊椎動物を採集 (7月、I)	6月3日 東大阪市生駒山 昆虫一般 (M)
香川県小豆島町・土庄町で海産無脊椎動物を採集 (7月、I)	6月5日 大阪城公園 クモ (M)
福井県で無脊椎動物を採集 (5、8月、I)	6月6日 奈良県生駒市生駒山麓公園
愛媛県四国中央市・西条市・松山市・松前町で海産無脊椎動物を採集 (8月、I)	ハチ (M)
大阪市で陸産無脊椎動物を採集 (9～3月、I)	6月9日 豊能町 ツガ林の昆虫 (S)
広島大学豊潮丸調査航海(瀬戸内海西部)で海産動物を採集 (11月、I)	6月9・15日 奈良県上北山村和佐又山
	昆虫一般 (M)
	6月10日 神戸市森林植物園
	ツガ林の昆虫 (S)
	6月12・19日 八尾市高安地区・東大阪市六万寺町
	昆虫一般 (K)
	6月13日 奈良県生駒市生駒山麓公園
	ハチ (M)
	6月13・14日 山梨県富士吉田市・静岡県沼津市
	カサアブラムシなど (S)
	6月20日 四天王寺 昆虫一般 (S)
	6月20日 泉佐野市犬鳴溪谷 昆虫一般 (M)
	6月24日 大正区千島公園 昆虫一般 (S)
	6月24日 奈良県奈良市高円山 昆虫一般 (M)
	6月25・26日 兵庫県美方町美方高原
	昆虫一般 (M)
	7月4日 豊中市服部緑地 昆虫一般 (M)
	7月6日 三重県伊賀市 ハナダカバチ (M)
	7月8日 福井県敦賀市 セミなど (S)
	7月8～10日 長野県王滝村御岳 昆虫一般 (M)
	7月11日 四天王寺 昆虫一般 (S)
	7月12日 大津市 甲虫類 (S)
	7月13日 滋賀県高島市 セミ・甲虫類 (S)
	7月16～18日 兵庫県美方町美方高原
	昆虫一般 (M)
	7月22日 豊中市服部緑地 昆虫一般 (M)
	7月23日 高槻市芥川緑地
	セミ・灯火昆虫 (S)
	7月29日 奈良県橿原市 昆虫一般 (M)
	8月1～4日 北海道帯広市・広尾町
	針葉樹および昆虫化石 (S)
	8月6日 滋賀県大津市びわ湖バレイ
	アサギマダラ (K)

■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員(金沢…K、初宿…S、松本…Mと略記)が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほか、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

4月1日 愛媛県松山市湯山柳	昆虫全般 (M)
4月7日 比叡山	昆虫全般 (S)
4月11・13日 奈良県大和郡山市	マイマイツツハナバチ (M)
4月18日 高槻市鶴殿	訪花昆虫 (M)
4月20～22日 長野県塩尻市・山梨県北杜市	(S)
4月21日 高槻市鶴殿	訪花昆虫 (M)
4月24日 高槻市三島江	レンゲ畑の昆虫 (M)
5月6日 京都府宇治市黒井	昆虫一般 (M)
5月7日 岡山県岡山市	ハチ (M)
5月8日 高槻市ポンポン山	昆虫一般 (M)
5月9日 滋賀県彦根市	昆虫化石 (S)
5月10・11日 福岡県福岡市	昆虫一般 (M)
5月12日 兵庫県三田市有馬富士公園	(M)
5月13・14日 兵庫県宍粟市赤西溪谷	(M)
5月15日 奈良県奈良市	昆虫一般 (M)
5月19日 滋賀県水口町水口松尾	昆虫一般 (M)

資料収集保管事業

8月18日 奈良県東吉野村 昆虫一般 (M)
 8月18・20日 平野区瓜破 昆虫一般 (S)
 8月26日 枚方市淀川河川敷 昆虫一般 (M)
 9月4日 鞆公園 セミのぬけがら (S, M)
 9月5日 此花区 アルゼンチンアリ (M)
 9月4～7日 熊本県五木村 クモヒメバチ (M)
 9月7日 大阪城 昆虫一般 (M)
 9月11日 八尾市高安地区 昆虫一般 (K)
 9月12日 豊中市服部緑地 昆虫一般 (M)
 9月16・17日 長野県大町市 アサギマダラ (K)
 9月23日 大正区千島公園 昆虫一般 (S)
 9月25日 兵庫県宝塚市南口
 アサギマダラ (K)
 9月26日 藤井寺市石川河川敷 バッタ (K)
 9月28日 池田市五月山 昆虫一般 (M)
 10月2日 和歌山県和歌山市友ヶ島
 昆虫一般 (M)
 10月3～6日 南アルプス仙丈ヶ岳～戸台
 針葉樹の昆虫類 (S)
 10月3・15・16・24日 愛知県田原市伊良湖岬
 南下昆虫 (K)
 10月10日 藤井寺市石川河川敷
 バッタ (K, M)
 10月17日 東大阪市枚岡公園 昆虫一般 (M)
 11月4日 枚方市淀川河川敷 昆虫一般 (M)
 11月7日 奈良県大和郡山市矢田丘陵
 昆虫一般 (M)
 11月19～25日 台湾台東・蘭嶼島・茂林・台中
 マダラチョウ (K)
 11月30日 琵琶湖 昆虫一般 (S)
 12月11日 高槻市 マキムシモドキ (S)
 12月14日 京大上賀茂演習林
 マキムシモドキ (S)
 12月15日 能勢・箕面 マキムシモドキ (S)
 1月9・15日 東大阪市枚岡公園
 越冬の昆虫 (S, M)
 1月19日 南港中央公園 越冬の昆虫 (S)
 1月29日 愛媛県松山市興居島
 ウスバカゲロウ (M)
 2月12日 貝塚市馬場 越冬昆虫 (K)
 3月2日 貝塚市馬場 越冬昆虫 (K)
 3月4・5日 群馬県前橋市 昆虫・植物化石
 3月8～11日 香港深水湾 マダラチョウ類 (K)
 3月14日 鶴見緑地 昆虫一般 (S)
 3月21～23日 北海道札幌市・上川町・東川町
 針葉樹調査 (S)

■植物研究室

調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料
 収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、
 佐久間…S D、志賀…S T、長谷川…Hと略記する。

5月6日 大阪府高槻市 植物一般 (H)
 5月8日 大阪府柏原市 植物一般 (S T)
 5月9日 大阪府阪南市 海浜植物 (S T)
 5月22日 大阪府阪南市 海浜植物 (S T)
 5月27～29日 福井県大野市・勝山市
 植物一般 (S T)
 6月12日 大阪府豊能町
 ヤブムラサキ属 (S T)
 6月15日 大阪府高槻市本山寺 菌類 (S D)
 6月16日 兵庫県三田市 水生植物 (S T)
 7月6～7日 高知県高知市・南国市・いの町
 水生植物 (S T)
 7月7日 大阪府高槻市神峰山寺 菌類 (S D)
 7月6日 和歌山県橋本市 水生植物 (S T)
 7月10日 和歌山県古座川町 植物一般 (H)
 7月13～15日 佐賀県・熊本県 水生植物 (S T)
 7月28～29日 愛知県新城市・岐阜県岐阜市
 水生植物 (S T)
 8月4日 奈良県奈良市春日山 菌類 (S D)
 8月5～7日 福井県大野市・勝山市
 植物一般 (S T)
 8月24～26日 栃木県日光市・那須烏山市・真岡市
 シモツケコウホネ (S T)
 8月26日 梅田新里山 菌類 (S D)
 8月29～30日 奈良県上北山村大台が原
 蘚苔類・菌類調査 (S D)
 9月4日 大阪府河内長野市 植物一般 (H)
 9月7日 大阪市中央公園大阪城公園
 植物一般 (S T)
 9月9～12日 北海道札幌市、苫小牧市
 菌類 (S D)
 9月23日 大阪市大阪城公園 菌類 (S D)
 10月5～6日 奈良県上北山村大台が原
 蘚苔類・菌類 (S D)
 10月11日 大阪府豊能町 植物一般 (S T)
 10月15日 滋賀県高島市旧朽木村 菌類 (S D)
 10月16日 大阪府高槻市神峰山寺 菌類 (S D)
 10月16日 大阪府吹田市 植物一般 (S T)
 10月17・18日 和歌山県古座川町 植物一般 (H)
 10月21日 大阪府吹田市 植物一般 (S T)
 10月30日 京都府立植物園 菌類 (S D)
 12月15・18日 京都府宇治市 蘚苔類・菌類 (S D)

■地史研究室

担当者名：樽野…T, 川端…K, 塚腰…Gと略記する。

- 4月2～3日 兵庫県洲本市 脊椎動物死体
(ニホンジカ3点, ウ1点, アオサギ1点, トビ1点, ミズナギドリ類1点, サカタザメ1点) (T)
- 5月3～4日 兵庫県洲本市 脊椎動物死体
(ニホンジカ6点, イノシシ1点, イヌ1点, タヌキ1点, ネコ1点, カワウ1点, ガンギエイ1点) (T)
- 5月9日 滋賀県彦根市
最終氷期植物化石 (G)
- 8月4日 岩手県陸前高田市
ペルム紀三葉虫化石 (K)
- 9月12日～13日 茨城県日立市 日立変成岩 (K)
- 9月14日 河内長野市岩湧山
マムシ 1点 (T)
- 10月31日 鹿児島県与論町
現生海岸堆積物(有孔虫砂) 1袋 (T)
- 11月10日 三重県伊賀市
中新世・鮮新世植物化石 (G)
- 1月11日 三重県伊賀市
中新世・鮮新世植物化石 (G)
- 1月12・15日、2月5・10日：和泉市
大阪層群植物化石 (G)
- 3月14日・15日 愛媛県宇和島市、西予市
白亜紀貝化石、鮮新世植物化石 (G)

■第四紀研究室

担当学芸員は、石井…I, 中条武司…Nと略記する。

- 5月14日 堺市 大阪層群火山灰試料 (I)
- 12月7日 吹田市 大阪層群火山灰試料 (I)
- 12月23・27日、1月12日、2月10日 和泉市
大阪層群火山灰試料 (I)
- 1月1日 福島県新地町 海浜砂 (I)

Ⅲ. 業務委託による収集

業務名：大阪湾岸干潟性生物分布生態調査業務

業務概要：大阪湾内では分布域が縮小傾向にある直達発生型巻貝ホソウミニナについて、季節毎に浮遊稚貝を採集し、浮遊密度、ならびに浮遊範囲を調査した。

調査水域：男里川河口(大阪府阪南市) およびその沖合海域。

調査時期：2011年7月～10月

Ⅳ. 資料数

■動物研究室 (平成23年度末)

海綿動物	131点
刺胞動物・有櫛動物	682点
扁形動物・紐形動物	390点
触手動物	139点
環形動物	5,594点
甲殻類	14,050点
軟体動物	32,444点
棘皮動物	2,591点
原索動物	462点
その他無脊椎動物	1,026点
魚類	37,241点
両生類	22,043点
爬虫類	7,893点
鳥類	6,620点
哺乳類	2,487点

(計) 133,793点

■昆虫研究室 (平成23年度末, 未登録標本を含む)

標本総数 0924,476点

日本産昆虫

カワゲラ目	459
カゲロウ目	10,180
トンボ目	18,256
カマキリ目	388
直翅目	11,909
ナナフシ目	453
ハサミムシ目	517
ガロアムシ目	98
ゴキブリ目	515
シロアリ目	92
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目	24
同翅類(カメムシなど)	14,185
異翅類(セミなど)	29,427
脈翅目	1,510
シリアゲムシ目	1,665
トビケラ目	2,197
蛾(ガ)	65,006
蝶(チョウ)	73,725

資料収集保管事業

甲虫目	303,533
ハエ目	45,590
ハチ目	44,155
その他（各目）	16,977
クモなど	16,402

(計) 657,623

外国産昆虫

蝶（チョウ）	83,106
蛾（ガ）	7,727
ハチ目	5,006
ハエ目	3,129
甲虫	125,378
脈翅目	54
同翅類（セミなど）	6,141
異翅類（カメムシなど）	2,099
直翅型昆虫	3,344
トンボ目	1,317
カワゲラ目	66
その他（各目）	3,117
クモなど	1,581
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143

(計) 266,853

■植物研究室（平成23年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物さく葉標本	270,105
蘚類標本	35,920
苔類標本	23,230
地衣類標本	0353
海藻標本	12,708
菌類標本	16,950
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071

(計) 368,392

■地史研究室（平成23年度末、登録済標本数）

岩石	1,275点
鉱物	2,513点
脊椎動物化石	1,714点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,090点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	135点
古生代植物化石	185点
中生代植物化石	367点
第三紀植物化石	3,741点

(計) 32,231点

■第四紀研究室（平成23年度末、登録済標本数）

人類遺物	29点
第四紀植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941(種)
現生シダ植物胞子	362(種)
無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1637(件)

(計) 36,621点(件・種)

V. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。そのような条件の中でも、コピーサービスについては、学

芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応じている。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成23年度（2011年度）も、新しく受け入れたものについて引き続き行っている。

平成23年度中にデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は405部で、平成23年度末現在の入力済み収蔵数は13,408部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成23年度に2,375冊、平成23年度末現在の累計172,391冊である。

1. 個人・機関からの受贈（登録済みの分のみ。交換分は除く。敬称略）

●**個人**：山内博美、早川貞臣、谷田一三、光田重幸、松橋義隆、山口明夫、本田俊之、加納康嗣、山本英夫、杉野孝雄、白岩卓巳、市川顕彦、邑田仁、八木健三、石崎英男、西川喜朗、小泉憲治

●**民間団体、出版社、企業など**：トンボ出版、北海道大学出版会、ニュートンプレス、昭文社、日本水産、デコ、INAX出版

●**政府機関及び自治体および関連団体、大学、研究所など**：東京都環境局自然環境部、東京都環境保全局自然保護部、千葉県環境生活部自然保護課生物多様性センター、Institute of Geology and Mineral Exploration LIBRARY、大阪歴史教育者協議会堺支部、箕面自然調査会、東京大学、U.S. Geological Survey、神宮微古館・農業館・式年遷宮記念 神宮美術館、（独）海洋研究開発機構（JAMSTEC）、日本直翅類学会、藤井寺市教育委員会 世界遺産登録準備推進室、大阪自然史センター、大阪市立自然史博物館友の会

2. 購入等によるもの

●**図書購入費による購入（登録済みの分のみ）**

平成23年度 59冊

●**消耗品費による購入**

国内7誌

[平成23年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋。

●**学会への加入による収集**

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会（日本応用動物昆虫学会

誌, Applied Entomology and Zoology)

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生態学会（Ecological Research, 日本生態学会誌）

日本生物地理学会（Biogeography, 日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本魚類学会（Ichthyological Research, 魚類学雑誌）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会（The Japanese Journal of Phycology, 藻類）

日本陸水学会（Limnology, 陸水学雑誌）

日本地質学会（地質学雑誌）

日本古生物学会（Paleontological Research）

日本地学研究会（地学研究）

日本博物館協会（博物館研究）

全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

国際トンボ学会（ODONATOLOGICA）

日本地球惑星科学連合（Japan Geoscience Letters）

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Studyと交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。

■研究報告など出版物の配布

2011年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告65号	478ヶ所	490冊	418ヶ所	421冊
収蔵資料目録 第43集	247ヶ所	258冊	54ヶ所	55冊
展示解説 第42回特別展解説書				
ミニガイド No. 24	277ヶ所	291冊		
館報 35号・36号	687ヶ所	700冊	11ヶ所	11部

展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列がこれを補っている。常設展示室としては、旧来の博物館建物（以下本館）にナウマン・ホールならびに第1～第5展示室があり、平成13年4月にオープンした「花と緑と自然の情報センター（略称：情報センター）」1階には、地域自然誌展示室がある。特別展示は情報センター2階のネイチャー・ホールで開催している。特別陳列はネイチャー・ホールまたは本館2階のイベント・スペースで開催している。

I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的に身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかわかってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、象徴的に展示している。

第1展示室「身近な自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示している。締めくくりの第5展示室では、「生き物の暮らし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活とどのようにつながって、どんな環境でくらしているのかを展示している。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという、市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所に設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成23年度には、下記の常設展示の更改・補修等を

行った。

■展示室内照明の一部LED化

国庫補助事業「グリーンニューデール基金」により、展示室内の照明の一部をLED化した。従来の蛍光灯あるいはハロゲン球による照明と比較して、省エネ化が図れるだけでなく、展示物がより鮮明に見えること、発熱量・紫外線量が少なく展示物への影響が軽減されることなど、多くのメリットがある。次期の展示更新時には、全面的なLED化を実施すべきであろう。

■ナウマンホールならびに2階ギャラリーの壁面補修

本館1階のナウマンホールならびにそれに続く2階ギャラリーの壁面は、磁器タイルで仕上げられているが、一部に剥落が見られたので調査を実施し、浮き上がりが明らかになった範囲については、タイル裏面に接着剤を注入する補修工事を行った。

II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し、共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

(1) 当館が主催した特別展

■第42回特別展「来て！見て！感激！大化石展」

概要・写真は巻頭カラーページに掲載。

●会 期：平成23年7月2日（土）～8月28日（日）
（50日間）

●会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール

●主 催：大阪市立自然史博物館

●後 援：日本古生物学会、日本第四紀学会、日本地質学会

●協 力：INAXギャラリー、神奈川県立生命の星・地球博物館、きしわだ自然資料館、京都大学総合博物館、国立科学博物館、小学館、洲本市立淡路文化史料館、石油資源開発、(株)技術研究所、丹波市、日本古生物学会、日本第四紀学会、日本地質学会、野尻湖ナウマンゾウ博物館、兵庫県立人と自然の博物館、三重県立博物館、和歌山県立自然博物館

●観覧料：大人500円、高校生・大学生300円

●入場者：30,159人。有料大人11,920人（39.5%）・有料高大生2,279名（7.5%）、合計14,199

名（47％）であった。中学生以下10,625名（35.2％）、その他無料入場者（高齢者等）5,335名であった。有料の大人入館者が11,920人あり、子どもばかりではなく大人にも好評であった。アンケートによれば、大阪市内45％、他府県55％と、他府県の割合が高かった。1日の最多入場者は最終日の1,478人であった。

- **キッズマップ**：子どもに展示の見どころを、楽しく、分かりやすく伝えるために、キッズマップ（A4判両面刷り）を作成し配布した。子どもたちの展示物を探す姿や、親子でマップを見ながら、話をしている姿が目立った。子どもたちへの見学への手がかりとなった。
- **展示見学ワークシート**：多くの中学生や高校生に、課題意識を持ちながら展示を見学してもらうために

展示見学ワークシート（A3判両面刷り）を作成し、中学や高校に配布した。近畿圏の48の中学・高校で課題として採用いただいた。その結果、ワークシートを持参して割引き入場した高校生は1,351名であった。高大学生の入場者数が2,279名（7.5％）と高率だったのは、ワークシートの効果と考えられる。

- **展示解説書**：展示品を短い解説とともに紹介した48ページのオールカラーの展示解説書を作成した。大阪市立自然史博物館の標本を中心とした「化石図鑑」と言える内容になった。
- **ホームページ**：展示内容をバーチャル博物館として閲覧できるようにした（2012年3月22日公開）。
- **連携**：大阪市内の図書館8館で、会期前～会期中にミニ展示を行った。

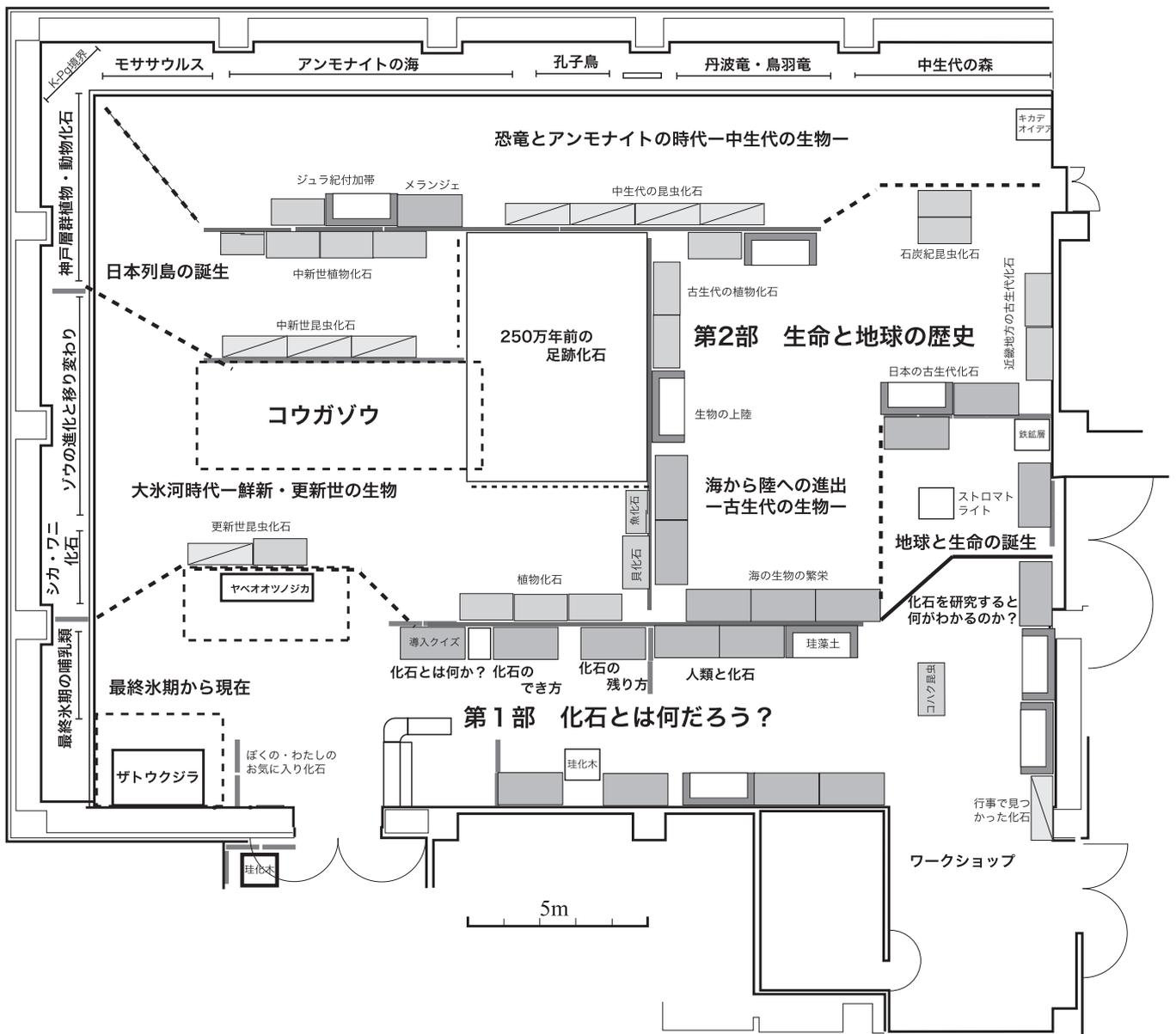


図1. 「来て！見て！感激！大化石展」の配置図

●関連行事

・マーブリング

事前ミニワークショップとして6月に開催した。

参加者：273名。

・化石スペシャルたんけんクイズ

事前ミニワークショップとして7月上旬に開催した。参加者：249名。

・子どもワークショップ（会場はいずれも特別展会場内特設会場）

「ぐるぐる消しゴムアンモナイト」

案内文：ねりけしをコネコネして、アンモナイトの標本の型に入れて…。ポコッと出したら消しゴムのできあがり。

開催日：7/16(土)、17(日)、18(祝・月)、23(土)、24(日)、8/13(土)、14(日)、20(土)、21(日)

時 間：11：30、13：30、15：30（1回約60分のプログラム）。8月の4回は午前の回を1回増やした。

対 象：小学生以上。

参加者：676名。

アンモナイトに親しむと同時に、模型の意義を考えるプログラムとして実施した。

「ハカセとハッケン！地そうと化石」

案内文：大昔からの砂やどろがつもってできた地そうには、いろいろな化石が うまっているよ。ハカセが地そうから化石をほりだすように、化石カードを見つけて てんじしつで ほんものの化石をさがしてみよう。自分だけの化石標本カードをつくるよ。

日 時：7/30(土)、31(日)、8/6(土)、7(日)、27(土)、28(日)

時 間：11：30、13：30、15：30（1回約60分のプログラム）

対 象：小学生以上

参加者：476名

化石は地層から見つかることを知り、時代別に化石を発掘する疑似体験、標本のスケッチを行うことにより、化石の研究過程を体験できるプログラムとして実施した。

・特別展講演会「アラスカ発、大阪のアンモナイト」

大阪の南にそびえる和泉山脈のふもとは、古くからアンモナイト化石の産地として知られてきた。北海道やサハリン、アラスカなどの化石と和泉山脈産の化石を比較してその類似性など、アンモナイトについての基礎的なことから研究の最前

線の話まで講演していただいた。

日 時：7月24日(日)

午後1時30分から3時30分

場 所：自然史博物館 講堂

講 師：重田康成（国立科学博物館環境変動史研究グループ研究主幹）

参加者：78名。

・自然史オープンセミナー・大化石展シリーズ

特別展「来て！見て！感激！大化石展」の開催にちなみ、博物館学芸員が展示内容に関連した内容を紹介した。

日時：5月21日(土)、6月18日(土)、7月16日(土)、8月20日(土) いずれも午後3時～4時30分

場所：自然史博物館 集会室

内容：括弧は参加者数。

5月：「化石からたどる植物の進化と植生の移り変わり」塚腰 実（地史研究室）（21名）

6月：「昆虫化石」

初宿成彦（昆虫研究室）（21名）

7月：「プランクトン化石が語る地球の話」

川端清司（地史研究室）（26名）

8月：「ヤベオオツノジカとヘラジカ」

樽野博幸（地史研究室）（22名）

・ジオラボ

ミクロの化石

三重県鳥羽市で見つかった「鳥羽竜」の発掘調査で、採集した試料から取り出した、約1億2千万年前の放散虫というプランクトンの化石をさがし、実体顕微鏡で観察した。

日 時：5月14日(土) 午後2時30分～3時30分

場 所：自然史博物館本館 ミュージアムサービスセンター

講 師：川端清司（地史研究室）

参加者：35名

・野外観察会

特別展に関連した3回の野外観察会を企画した。大阪でも化石が採集できることを知ってもらう展示として、それぞれの行事で採集できた化石を展示室に展示した。

テーマ別自然観察会「氷期の昆虫と植物の化石」

2万数千年前、日本列島は現在よりも7度ほど気温が低く、北日本にすむ生物が関西にも多く分布していた。当時の地層を割り出して、昆虫や植物の化石を探す行事を計画したが、雨天中止となった。

日 時：5月29日(日)

場 所：滋賀県彦根市

テーマ別自然観察会「白亜紀の化石」

中生代白亜紀の化石の観察会を行なった。泉佐野市に分布する地層から、約7,000万年前の化石を探した。

日 時：7月23日（土）午前10時～午後2時

場 所：泉佐野市滝の池

参加者：37名

テーマ別自然観察会「250万年前の植物化石」

植物化石の観察会を行った。岸和田市に分布する地層から、約250万年前の植物の種子や果実の化石を探した。

日 時：7月31日（日）午前9時～午後2時

場 所：岸和田市阿間賀滝町

参加者：40名

(2) 当館が共催した特別展

本年度は上記の主催展のほか、下記のような当館共催の特別展をおこなった。

■「Ocean! 海はモンスターでいっぱい 展」

私たち人間も含む“生命の源”である海にはさまざまな環境があります。沿岸、外洋、深海、そしてそこに生息する生き物たちも多種多様で、陸とは違う体の形、海ならではの食べ方、移動方法などを見ることができます。

また長い歴史の中、海的环境は変わり、海に棲む生き物たちも移り変わってきました。多様な種類の生き物が現れた海、魚が登場する以前の海、魚が繁栄した海、90%以上の生き物が絶滅した海、陸から海へ進出した爬虫類や哺乳類が栄えた海、そしてずっと海に棲む生き物。

本展では、「海にくらす」「6億年海のニュース」の2テーマで展示を構成し、海とそこに棲む生き物たちの多様な姿を、化石と現生標本をつかって紹介しました。

●会 期：平成23年9月10日（土）～11月27日（日）
（68日間）

●会 場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール
（花と緑と自然の情報センター2階）

●主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞大阪本社
（二者で実行委員会を組織）

●観覧料：大人1200円、高校・大学700円。

●展示内容

1. プロローグ 海は進化の舞台
2. 海にくらす
 - 2-1：海というすみか
 - 2-2：海の大きな生きものたち
 - 2-3：とらえる、食べる
 - 2-4：泳ぐ、はう

3. 6億年海のニュース

- 3-1：みんな海で生まれた
- 3-2：多様な生物あらわる！
- 3-3：魚のいない海
- 3-4：魚の登場
- 3-5：爬虫類、海へ
- 3-6：哺乳類、海へ
- 3-7：つながる海 今も生き続ける

<会場内展示配置図>

●展示見学ワークシート

多くの高校生に本展を見学してもらい、恐竜を通して地球の歴史を考えてもらうきっかけとするため、大阪府教育センターの広瀬祐司教諭の協力により展示見学ワークシートを作成し、大阪府高校地学教育研究会・生物教育研究会を通じて府下の350校の高校に課題としての採用を依頼した。

●関連行事

○ギャラリートーク「海の生きもの」たんけん隊

本展に登場する「海の生きもの」たちを、大阪市立自然史博物館学芸員が紹介するギャラリートークを実施した。

・日 時：9月10日（土）11日（日）、10月22日（土）23日（日）、11月12日（土）13日（日）の各日2回実施 10：30～11：00、15：30～16：00

・担 当：9月；樽野、10月；川端、11月；石田

・参加者：のべ342名

・会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール 特別展会場内

○産総研「海の生きもの体験教室」

独立行政法人 産業技術総合研究所の協力で、世界一のいやし“アザラシロボット”の“パロ”と遊んだり、本展にも展示されている絶滅した謎の哺乳類「デスモスチルス」の工作教室や、メダカの観察会など、楽しくためになる体験教室を開催した。
▽世界一のいやしアザラシロボットのパロとあそぼう！

・日時：9月23日（金・祝）～25日（日）

・会場：花と緑と自然の情報センター2階 アトリウム

▽謎の絶滅哺乳類「デスモスチルス」の工作教室

・日 時：9月23日（金・祝）、24日（土） 両日とも30分ごとに11回開催した。

・参加者：のべ 305名

・会 場：花と緑と自然の情報センター2階 アトリウム

○ミニワークショップ「海のモンスターみっけ！」

NPO大阪自然史センターの協力で、常設展第3

展 覧 事 業

展示室にいるお気に入りのモンスターたちを見つけるワークショップを実施した。

・日時：9月24日(土)25日(日)、10月8日(土)9日(日) 10:45~11:30、13:00~15:00 (15~30分おきにスタート)

・会場：大阪市立自然史博物館 本館(常設展) 2階第3展示室

○JAMSTEC Day in 大阪

独立行政法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)の協力で、深海生物の特別展示や深海生物のレプリカづくり、セミナーや深海1000mの水圧実験など、海について学ぶことができるイベントを実施した。

◇深海生物の特別展示「太陽のない世界は生命の起源」

深海の熱水湧水系、沈み込み帯の冷水湧水系に特有なシロウリガイ・スケーリーフットなどの標本を展示した。

・日時：10月1日(土)~10日(月・祝)

・会場：花と緑と自然の情報センター2階アトリウム

◇キッズ実験&工作教室

・日時：10月10日(月・祝)

・参加者：約300人

・会場：特別展会場前 花と緑と自然の情報センター2階アトリウム

◇JAMSTEC特別セミナー「深海生物・地震津波のサイエンス」

「深海暮らしの動物と深海研究暮らしの研究者」

(海洋・極限環境生物圏領域研究員・和辻智郎氏)

「将来の地震津波災害にどう備えるか~過去の巨大地震大津波から教訓と先端科学・技術~」(地震津波・防災研級プロジェクトリーダー・金田義行氏)

・日時：10月30日(日) 13:00~16:00

・参加者：140人

・会場：大阪市立自然史博物館 本館講堂

○ワークショップ「三葉虫をしらべてみよう！」

京都大学総合博物館の大野照文教授を講師に迎えて、三葉虫の実物化石やレプリカを観察し、スケッチして、どのような生きものだったのか推察するワークショップを実施した。

・日時：10月2日(日) 13:00~14:30

・参加：26人

・会場：大阪市立自然史博物館 実習室

○化石研究会 公開講演会「恐竜時代の海のモンスター」

会期中に自然史博物館を会場として開催された

「化石研究会」の公開講演会として、特別展に展示されているクビナガリュウとカメ化石の専門家を招き、それぞれの研究最前線を紹介してもらった。

・日時：10月29日(土) 13:00~15:40

・参加者：57人

・会場：大阪市立自然史博物館 本館講堂

・演題：

「クビナガリュウのいた時代」

佐藤たまき氏(東京学芸大学教育学部准教授)

「ウミガメ：大絶滅を生き延びたモンスター」

平山 廉氏(早稲田大学国際教養学部教授)

ここに記載した以外にも、読売新聞社と協同で、多彩なイベントを開催した。

■「新説・恐竜の成長」

特別展「新説・恐竜の成長」(原題：The Growth and Behavior of Dinosaurs)は、アメリカ・モンタナ州立大学ロッキー博物館の古生物学者ジャック・ホーナー博士とその研究チームによる最新の研究成果を軸に構成した展示です。「現在、学名がつけられた白亜紀の恐竜のうち、3分の1以上が異なる種ではなく、同一種の異なる成長段階である」。この学説を、成長過程を考察することができるトリケラトプスコレクション標本群、そして門外不出と言われていた同館所蔵の「世界最大のティラノサウルス・レックスの実物頭骨化石」などで解説します。ホーナー博士監修による全長12mを超えるティラノサウルスや色が変わるトリケラトプスなど動く恐竜復元ロボットも登場し、たのしみながら理解できるようになっている。

●会期：平成24年3月10日(土)~6月3日(日)

●会場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)

●主催：大阪市立自然史博物館、読売新聞大阪本社(二者で実行委員会を組織)

●観覧料：大人1200円、高校・大学700円。

※詳しくは館報38号(平成24年)に掲載する。

Ⅲ. 特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行っているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

■「お披露目！博物館に届いた新しい標本」

会期：平成23年4月29日(金・祝)から5月29日(日)

会場：自然史博物館ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)

主催：自然史博物館

概要：主に最近1年間に、博物館資料に加わった動

物・植物・昆虫や、化石・岩石の標本の中から、「大阪湾に漂着したマッコウクジラの胃内容物と下顎骨」や「南アルプス鳳凰山の甲虫類」など、約2万点を展示した。

展示内容：

- (1) 大阪湾に漂着したマッコウクジラの胃内容物と下顎骨
- (2) 北米およびアフリカ産イシガイ類標本
- (3) 西垣内（にしがいと）鳥類コレクション
- (4) 南アルプス鳳凰山（ほうおうさん）の甲虫類
- (5) 小路嘉明（しょうじよしあき）コレクション（日本産蝶類）
- (6) 新記載された種を含む大阪府高槻市産冬虫夏草菌標本
- (7) 新名神高速道路建設予定地の植物標本
- (8) 大阪平野地下に残された古墳時代の海岸線（地層はぎ取り標本）
- (9) 京阪中之島線ボーリング資料

■パネル展「今 地震・津波を考える」

会 期：平成23年7月23日（土）～8月28日（日）
 会 場：自然史博物館本館2階イベントスペース
 主 催：自然史博物館

平成23年3月11日に起こった東北地方太平洋沖地震は、地震の揺れと津波によって東北地方を中心とした日本各地に大きな被害を及ぼし、日本に暮らす私たちにとって地震と津波は忘れてはならないものだと再認識させられた。そこで、2008年に開催した特別展「地震展2008」で使用した写真などを展示し、地震・津波に関する理解を深めてもらう機会とした。

また、当館では今回の震災によって大きな被害を受けた陸前高田市立博物館の標本の修復に取り組んだ。その取り組みの紹介と、修復された標本も展示した。

■コーナー展示「大阪のタンポポは今 2010年の市民調査から」

会 期：平成23年3月17日（土）～6月3日（日）
 主 催：自然史博物館、西日本自然史系博物館ネットワーク、タンポポ調査・西日本2010大阪実行委員会

会 場：本館2階イベントスペース
 概 要：2009年3～5月と2010年3～5月の2カ年に、福井から福岡までの西日本で一斉に取り組まれた「タンポポ調査・西日本2010」の成果をもとに、教科書などに取り上げられるタンポポの面白さの解説、大阪のタンポポの現況、雑種問題、タンポポ調査の歴史などを取り上げて展示した。遠足シーズンに学校向けのコンテンツを取り上げることも狙いの一

つ。

1. タンポポの知恵
2. いろいろなタンポポ
3. みんなで調べたタンポポ調査プロジェクト

展示品：標本、模型、スライドショーなど約30点



図2. 「大阪のタンポポは今 2010年の市民調査から」

■ミニ展示「陸前高田市海と貝のミュージアム所蔵の貝類標本とそのレスキュー」

展示期間：平成24年3月2日（金）から6月3日（日）
 場 所：自然史博物館 本館1階 ナウマンホール
 主 催：自然史博物館
 協 力：陸前高田市海と貝のミュージアム、岩手県立博物館

概 要：陸前高田市海と貝のミュージアム（岩手県）は、今回の津波により建物全体が水没し、流失を免れた標本も大半が浸水する被害を受けた。これらは平成23年4月上旬に現地から回収されたが、時間経過に伴って標本にカビが発生したり、ラベルが傷んだりしていたため、洗浄・殺菌・乾燥作業を行うことになった。自然史博物館ではこのうち陸産貝類（柵山龍司コレクション）の微小種約500点を預かり、復旧作業を行った。今回のミニ展示では、復旧を終えた標本の一部（22点）を展示した。

IV. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、また特別展の広報を兼ねて、小規模な移動展示を行なっている。

■特別展「来て！見て！感激！大化石展」関連企画

大阪市立図書館でミニ展示を開催した。
 4月～8月：中央、浪速、鶴見、平野、島之内、淀川、東住吉、住之江の各図書館

展 覧 事 業

■「生きている化石 メタセコイア」ー三木博士が研究したメタセコイアと水草ー

(雨滝自然科学館10周年企画展、三木茂博士生誕110年・メタセコイア発見70年の記念展示)

香川県はメタセコイアを化石として発見した三木茂博士の生誕地である。2010年は、三木茂博士がメタセコイアを発見して70年を迎える年であり、当館にて第3回国際メタセコイアシンポジウムおよび特別陳列「三木博士の収集したメタセコイア化石と水草標本」を開催した。この特別陳列の内容を元に、三木博士の生誕地である香川県さぬき市にある雨滝自然科学館の開館10周年の記念企画展として以下の展覧会を開催した。この企画展は、「三木茂博士生誕110年、メタセコイア発見70年」としても位置づけられた。

会 期：平成23年7月16日～11月23日

会 場：雨滝自然科学館（香川県さぬき市）

主 催：雨滝自然科学館・大阪市立自然史博物館・さぬき市教育委員会

入館料：無料

展示内容：2010年に当館で開催した特別陳列「三木博士の収集したメタセコイア化石と水草標本」で展示した標本、パネル、写真の他に、三木博士の学生時代から晩年の写真を多数展示した。

V. 「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年（小学1～3年生）向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲示するようにしている。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためるとともに、土・日曜日用に、裏面に書き込みスペースのあるカードを印刷し配布している。

VI. その他

(1) 無料開放

「関西文化の日」の平成23年11月19日（土）・20（日）、ならびに、「長居公園あそび・春の元気っこデー」の平成24年3月18日（日）を無料開放とした。

(2) 臨時休館

ナウマンホールならびに2階ギャラリーの壁面補修工事、展示室内照明の一部LED化工事に際し、平成24年1月17日（火）から2月29日（水）までを臨時休館とした。

I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている（**印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめの細かい普及教育活動を行うために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事に導入している（*印）。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事は、こうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

2007年度から、野外観察会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行うことが可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか、省略した。行事の詳細は展覧事業28ページの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年に引き続き定員を超過している行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員したことにより、昨年より抽選率を緩和した行事もある。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」*、**	高槻市		
4月24日	申込185名	参加者115名	
「海べのしぜん」*、**	岬町長崎海岸		
5月1日	申込285名	雨天中止	
「はじめてのキノコ」*、**	東大阪市		
6月26日	申込192名	参加者112名	
「ツバメのねぐら」*	奈良市		
8月13日	申込276名	参加者163名	

「バッタのオリンピック」**	藤井寺市石川	大和川	
10月10日	申込149名	参加者115名	
「化石さがし」	泉佐野市		
12月4日	申込231名（当選150名）	参加者129名	
6テーマ 5回実施 延べ参加者数634名			

■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。

「長居公園」	大阪市東住吉区		
4月16日		参加者54名	
「貝掛海岸で大阪湾の自然をみよう」	阪南市		
5月22日	申込120名（当選80名）	雨天中止	
「大阪城公園の自然」	大阪市中央区		
9月23日	申込111名（当選84名）	参加者71名	
3テーマ2回実施 のべ参加者数125名			

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしばって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。

「春の干潟のシギ・チドリ」*			
4月17日	申込36名	参加者23名	
「花にくるハチ」			
4月29日	申込86名（当選40名）	参加者37名	
「都市の繁殖鳥」			
5月15日	申込29名	参加者15名	
「田んぼのカエル」			
5月29日	申込132名（当選60名）	雨天中止	
「氷期の昆虫と植物の化石」			
5月29日	申込85名（当選43名）	雨天中止	
「南河内・汐ノ宮～嶽山周辺の地形と地質」			
6月5日	申込71名	参加者54名	
「高槻のカエル探し」			
6月12日	申込141名（当選77名）	参加者58名	
「都市のコケ」			
6月19日	申込37名	参加者30名	
「街のキノコ」*			
7月3日	申込108名	参加者67名	
「初夏のキノコ」			
7月10日	申込56名（当選45名）	参加者22名	
「白亜紀の化石」			
7月23日	申込102名（当選53名）	参加者37名	

普及教育事業

「芥川でセミの羽化&ライトトラップ」		
7月23日	申込133名（当選78名）	参加者49名
「250万年前の植物化石」		
7月31日	申込164名（当選50名）	参加者40名
「大川水辺の自然観察とセミナー」		
9月11日	申込82名	参加者56名
「秋のキノコ」		
10月16日	申込32名	参加者21名
「はじめてのバードウォッチング 秋の渡り鳥をさがそう」		
10月23日	申込74名	参加者45名
「地層の見方と調べ方」		
11月6日	申込36名	雨天中止
「生駒山地南端部の地質と旧・大和川」		
11月23日	申込68名	参加者61名
「大阪湾のカモメとカモ」		
12月11日	申込39名	参加者29名
「光明池の大阪層群」*		
1月15日	申込54名	参加者41名
「活断層を歩く・中央構造線」		
2月26日	申込49名	参加者41名
	21テーマ 18回実施	のべ参加者数726名

■プロジェクトU 都市の自然の調査

2011年度から都市の自然の調査プロジェクト（プロジェクトU）が始まった。これは市民参加で都市の自然を調べる企画で、2014年の夏の特別展を目指してとりまとめを行う。調査の研修もしくは、調査の一環としての観察会を実施した。

「ハナバチ班調査 植物園の訪花昆虫」		
5月5日		参加者8名
6月25日		参加者18名
7月16日		参加者14名
8月20日		参加者11名
9月10日		参加者14名
10月29日		参加者18名
「長居公園の植物」		
5月14日		参加者20名
6月18日		参加者17名
7月10日		参加者10名
9月19日		参加者17名
10月23日		参加者21名
11月12日		参加者24名
12月10日		参加者13名
「都市公園のトカゲとタヌキ探し」		
6月5日	申込57名	参加者41名
	3テーマ 14回実施	のべ参加者数246名

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行なえない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の調査の勉強会」		
4月2日	申込19名	参加者16名
「昆虫化石の調べ方」		
4月10日	申込111名（当選48名）	参加者46名
5月8日	申込46名	参加者39名
「昆虫標本の作りかた」		
7月31日	申込70名（当選49名）	参加者47名
「ホネの標本の作りかた」*		
8月14日	申込56名（当選36名）	参加者28名
「樹脂包埋標本の作製」*		
10月23日	申込20名	参加者17名
10月23日	申込20名	参加者16名
「水路実験から地層の形成を考える」		
11月3日	申込31名	参加者27名
「解剖で学ぶイカ・タコの体のつくり」		
2月19日	申込10名	参加者8名
「魚のからだ」		
2月26日	申込10名	参加者9名
「裸子植物」		
3月4日	申込26名	参加者22名
	9テーマ 11回実施	のべ参加者数275名

■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察も取り入れて行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。6・12・1月に他分野の学芸員とのコラボレーションによるスペシャル編の行事実施も行った。

4月2日*	参加者77名
5月7日*	参加者88名
6月4日（植物と昆虫）*	参加者75名
7月2日*	参加者59名
8月6日*	参加者38名
9月3日*	台風接近のため中止
10月1日*	参加者47名
11月5日*	参加者23名
12月3日（木の実と鳥）*	参加者39名
1月7日（木の実と落ち葉）*	参加者74名
2月4日*	参加者57名
3月3日*	参加者63名

11回実施 のべ参加者数640名

■長居植物園案内：動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらいたいがある。原則として毎月第3土曜日に開催した。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥」	
4月23日	雨天中止
「温暖化で北上する昆虫を探そう」	
5月28日	雨天中止
「大池の生き物」	
6月25日	参加者39名
「夏の花に来る虫」	
7月23日	参加者71名
「夏の昆虫たち」	
8月27日	参加者30名
「秋の渡り鳥」	
9月24日	参加者46名
「秋の羽根拾い」	
10月22日	雨天中止
「ダンゴムシ・ワラジムシ」	
11月5日	参加者19名
「冬越しの昆虫」	
12月24日	参加者55名
「冬の鳥の食べ物」*	
1月28日	参加者38名
「冬の羽根拾い」	
2月25日	雨天中止
「花に来る鳥」	
3月31日	雨天中止

7回実施 のべ参加者数298名

■自然史オープンセミナー

自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。最近の3年間は特定のテーマを体系的に学習してもらうことを主眼とし、原則として3-4回のシリーズ企画としている。当館学芸員が自らの調査・研究の成果に基づいて行ったほか、外部講師も招いた。当館集会室で原則として毎月第1土曜日の午後3時-4時30分に開催。

「都市の自然」	
4月16日	参加者64名
「化石からたどる植物の進化と植生の移り変わり」	
5月21日	参加者21名
「昆虫化石」	
6月18日	参加者21名

「プランクトン化石が語る地球の話」

7月16日	参加者26名
「ヤベオオツノジカとヘラジカ」	
8月20日	参加者22名
「都市の昆虫学」	
9月17日	参加者18名
「都市に生きるハチ」	
10月15日	参加者20名
「都市で繁殖する鳥」	
12月17日	参加者39名
「都市を彩る植物たち」	
1月21日	参加者40名
「大阪湾のフナムシその後」	
2月18日	参加者22名
「大阪湾の海藻よもやま話」(鍋島靖信氏)	
3月17日	参加者39名

11回実施 のべ参加者数332名

■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえるよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事の中では初・中級向け。

「様々な保存状態の植物化石」*	
4月9日	参加者47名
「ミクロの化石」*	
5月14日	参加者35名
「水槽の中に地層を作る」*	
6月11日	参加者52名
「黒雲母のみみつ」*	
9月10日	参加者24名
「ハザードマップを作ってみよう」*	
10月8日	参加者22名
「葉っぱの化石」*	
11月12日	参加者25名
「断層を調べてみよう」*	
12月10日	参加者25名
「偏光でみた鉱物の世界」*	
1月14日	参加者29名
「大阪層群の火山灰を実体顕微鏡で見比べる」*	
3月10日	参加者23名

9回実施 のべ参加者数282名

■夏休み自由研究相談*

夏休みに自然をテーマとした自由研究に取り組みたいが、方法がわからない、対象を決めかねている、と

普及教育事業

いった悩みをもつ小・中・高校生に、学芸員がアドバイスを行う行事。できるだけ事前申込を呼びかけたが、当日参加も受け付けた。

日 時：7月24日（日）

場 所：自然史博物館 ミュージアムサービスセンター

相談件数：44件（事前申込：51件）

■標本の名前をしらべよう 標本同定会 **

児童生徒が夏休みに採集して作成した標本の名前を教える行事。自然物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。ただし、子供だけでなく、大人の参加者も多い。館外から多数の専門家の参加を得て、毎年8月下旬に実施している。本年度は8月21日に実施した。

件数：73件、参加者数95名。

なお本事業の効果を高めるため、夏休みの始めに「夏休み自由研究相談会」（7月24日）も開催している。

■音楽と自然のひろば

ファミリー層を主体とした市民に、自然に触れ、親しんでもらう機会を作ることを目的として、大阪市音楽団による演奏と自然史博物館学芸員のミニトークの実施を企画した。大阪市における文化施策と教育の連携事業として実施した。

日 時：4月17日（土） 参加者：1200名

10月22日（土） 参加者：650名

会 場：博物館本館 玄関ポーチ

内 容：大阪市音楽団によるコンサート

■講演会・シンポジウム

学会などと共催した講演会やシンポジウムを開催し、多数の市民に聴講いただき、好評を得た。特別展講演会と友の会総会招待講演は、それぞれ別項に記した。

1. 日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム
5月7日（土） 65名
2. 地球科学講演会「"はやぶさ"探査と小惑星の起源」
5月15日（日） 0327名
3. 大阪市生物多様性シンポジウム
10月23日（日） 0183名
4. 化石研究会公開講演会「恐竜時代の海のモンスター」
10月29日（日） 57名

5. 日本蜻蛉学会公開講演会
11月13日（日） 0113名
6. 菌類生態学講座
1月21日（土）・22日（日）
参加者85名（1日目）・125名（2日目）
7. 公開シンポジウム「菌類のふしぎと他の生物との関わり合い」
3月4日（日） 0149名

■はくぶつかん・たんけん隊*

裏方（実験室や収蔵庫など）を中心とする館内見学。普段は見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。昨年度からタイトルを変更し、対象もこれまでの小学生から小学生・中学生に広げた。本年度は申込が多かったため、両日とも午前・午後の部を設け、合計4回実施した。また、参加者の家族（保護者・未就学児）向けに、参加者とは別枠でバックヤードショートツアーを行った。

1月8日（日）9日（月・祝）

申込298名 参加者269名

■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒にの行事には参加しないとの指摘を受けた。

以上をふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2012年3月31日現在の部員数は86名。

●2011年度の活動内容

およそ月に1度のペースでの行事を実施した。

「ミーティング 裏方見学と標本実習」*

4月5日 39名

「ミーティング 樹脂包埋標本作りの続き」*	5月5日	24名
「ポンポン山のミヤマウズムシ探し」*	5月8日	20名
「磯観察」	6月19日	雨天中止
「和泉葛城山のふもとで水遊び」*	7月30日	22名
「ジュニア学芸員になろう」	8月9日10日	17名
「きのこ狩り」	9月4日	雨天中止
「友ヶ島でタカの渡りの観察」*	10月2日	12名
「ミーティング フェスティバルの準備」*	11月3日	14名
「信貴山でガーネット探し」*	11月13日	17名
「化石採集」*	12月19日	22名
「河原で焼き芋」*	1月5日	14名
「甲子園浜の水鳥観察」*	2月5日	7名
「奈良公園の哺乳類さがし」*	3月29日	18名
企画15回、実施13回、参加者数のべ226名		

■ビオトープ

バックヤードを利用して、ビオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか、継続的に調査している。ビオトープ作りに関心のある方、自然に興味がある方、体を動かすことが好きな方など、一緒に作業や調査をする方を募集して行った。原則として毎月第3土曜日に実施した。

4月9日	参加者18名
5月21日	参加者56名
6月18日	参加者28名
7月16日	参加者51名
8月20日	参加者37名
9月10日	参加者31名
10月15日	参加者26名
11月26日	参加者33名
12月17日	参加者14名
1月21日	雨天中止
2月18日	参加者19名
3月17日	雨天中止

12回実施 のべ参加者人数313名

■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワークショップを2005年度から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展関連のものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。原則的に毎月1度の土日に実施している。普及行事の中では、初級向け。

2007年度より、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名募集し、研修を実施したうえで、2ヶ月に1回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員やワークショップスタッフと共にオリジナルプログラムを製作、3月の「ボランティア祭り」において実施してもらった。

特別展関連行事として実施したワークショップについての詳細は展覧事業28ページからの各特別展の関連行事の項を参照のこと。

「クジラ・スタンプラリー」

4月29日 参加者380名

「きょうりゅうはりえ」

5月21日・22日・6月4日・5日 参加者261名

「ぐるぐる 消しゴム アンモナイト」

7月16日・17日・18日・23日・24日・

8月13日・14日・20日・21日 参加者676名

「ハカセとハッケン！地そうと化石」

7月30日・31日・8月6日・7日・27日・28日

参加者476名

「セミはねもようストラップ」

9月4日 参加者92名

（9月3日は台風接近のため中止）

「くらべっこドングリ」

10月29日・30日・11月5日・6日 参加者202名

「なかよし・冬の水鳥」

12月3日・4日・1月21日・22日 参加者86名

「ミツバチのおくりもの～てづくりろうそく～」

2月25日・26日 参加者113名

「ボランティアまつり」

3月26日・27日 参加者145名

33回実施 のべ参加者数2431名

（特別展関連含む）

Ⅱ. 教員・観察会指導者向け支援プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまったことから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まってきている。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。また、対象は学校教員に限らず、教員を目指す大学生、自然観察指導員などに門戸を広げて実施している。

「植物園案内・春の遠足下見編」

4月8日・12日

参加者32名

普及教育事業

「火山灰野外編」

5月22日 申込8名 雨天中止

「火山灰室内編」

7月3日 申込8名 参加者6名

8月7日 申込9名 参加者5名

「菌根を見てみよう」

8月2日 申込16名 参加者16名

「学校の地下の地層」

8月9日・10日 申込2名
参加者キャンセルのため中止

「ホネを使った授業を考える」*

8月11日 申込16名 参加者13名

「岩石の見分け方」

8月17日 申込16名 参加者14名

7テーマ 7回実施 のべ参加者数86名

Ⅲ. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の17大学、のべ34名の学生を受け入れた。なお、夏期一般コースにおいて台風12号による暴風警報（大阪市）の為、1日休講（9月3日）の措置をとった。休講分はレポート提出に切り替えた。

一般実習コース

夏 期：8月31日～9月4日 15名

小山香菜（東京農業大学）、三好洋輝（岡山大学）、中條真由美（金沢大学）、藤井千絵（追手門学院大学）、谷尾良真（神奈川大学）、山口花梨・岩崎健太郎・片山涼子・山本絢子（近畿大学）、坂田啓三（大阪府立大学）、赤松 孟・川上倫史（高知大学）、金子実樹（神戸芸術工科大学）、坂爪太路・吉岡光一郎（京都橘大学）

秋 期：10月12日～16日 14名

今西由紀・中野源大（京都教育大学）、湯川弘一・水野聖子（岡山大学）、小林敦美・瀬尾菜々美（神戸大学）、西野麻侑（大阪教育大学）、福澤拓真（追手門学院大学）、鈴木 雅・松野 悠（龍谷大学）、鈴木真裕（大阪府立大学）、古川沙央里・辻本典顯（滋賀県立大学）、西又 鼓（千葉大学）

普及教育専攻コース

冬 期：1月7日～9・28～29日 4名

西澤あすか・松本侑香里（龍谷大学）、田村恵子・町田英美（京都府立大学）

その他

金沢至主任学芸員担当による関連分野実技習得の為の実習

8月17～21日 1名

竹内啓一（大阪府立大学）

Ⅳ. 各種研修

■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の中から募集を行なっている。行事实施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となっており、当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

Ⅴ. 学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ1名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

<児童・生徒向け事業>

・**博物館マップ・ワークシートの配布**：見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年、中学校の3種類がある。特別展「来て！見て！感激！大化石展」、「Ocean! 海はモンスターでいっぱい」では、中学生・高校生向けのワークシートを作成し、夏の課題として学校へ案内した。これにより、特別展の高校生の来館増に結びついた。

・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、先生からの要望を基に、先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。児童・生徒が博物館に来られない事情がある場合は、学芸員が出向いて授業を行っている。

2011年度は保育所・幼稚園 3件、小学校 10件、中学校 7件、高校 5件、大学 5件、支援学校 1件、院内学級 1件 合計32件の授業を行った。

2011年度の授業例：「チョウの成長」、「化石から分かること」、「タンポポ」、「海の生きもの」、「紅葉の不思議」など。

・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受け入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2011年度は、大阪府内の中学校3件（5人）を受け入れた。

<先生向け事業>

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な

資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。

2011年度は、博物館の出版物20件、ビデオ・CD-ROM・DVD86件、紙芝居26件、標本キット12件の貸し出しを行った。

貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：蝶・蛾の世界、昆虫の化石、都市の自然など。

標本キット：川原の石ころ、セミ、テントウムシ、ドングリ、「ナガスケ」紙芝居セットなど。

・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員をターゲットとする大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方、自然観察会の指導している方を対象に研修を行っている（図3）。2011年度は7回開催した（39～40ページ参照）。これら以外に、幼保小中学校の先生を対象とした13件の教員研修を行った。また、大阪府と大阪市の新任教員研修の一環として、社会体験の受け入れを2件5名行った。



図3. 保育園の先生を対象とした昆虫の観察研修

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク (Teachers-Museum Network)

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク (Teachers-Museum

Network) をつくっている。122名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を4回発行した。

<その他>

・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2011年度の大阪府の高校の生徒生物研究発表会を博物館で実施した。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科、中学校の社会科(地理・歴史・公民)・理科(第2分野)の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の本会1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料(標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど)、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

VI. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1~12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

2011年度友の会では、博物館主催行事とは別に行事を44回の行事を実施し、延べ2,237名(2010年度は52回2,775名)の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

■庶務報告

1. 2011年度の友の会会員数は、1,701名(一年会員

1,463名、4月会員73名、半年会員71名、10月会員46名、賛助会員48名)で、2010年度より54名減った。

※2011年賛助会員(五十音順、敬称略)

浅井 彪、浅葉 清、麻野 浩、安部みき子、石井久夫、石田美禰子、浦野動物病院、大岩 誠、大久保幸子、大宮文彦、加藤江理子、金城佳恵、河崎紗織、川端優太、小郷一三、後藤圭一郎、小林美佐子、小山 栄、白川勝正、高橋明子、高橋弘志、瀧川久子、田邊一三、田村美美子、寺田雅章、時枝奉之、内貴章世、中島満晴、西尾秀雄、西川喜朗、西田良司、西村静代、野村典子、樋渡諦児、福西勝之、正木信行、益田晴恵、松下宏幸、宮川五十雄、宮武頼夫、室山泰之、本村明彦、山下良寛、山西良平、和田 岳、匿名3名

2. 5回の定例評議員会を開催し、友の会の事業、庶務などについて審議した。
3. 事業ワーキンググループで10回の事業に関する議論を行い、評議員会に提案を諮った(事業ワーキンググループメンバーは評議員だけでなく、一般会員からも募っている)。

■事業報告

1. 印刷物の刊行: Nature Study誌57巻1号(通巻680号)~12号(通巻691号)を発行した。また2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。
2. 行事を47回計画し、うち44回を実施した(実施しなかった3回はすべて雨天中止)。これらの行事には延べ2237名の参加があった。

(1) 月例ハイキング

(11回計画9回実施、657名参加)

- | | |
|------------------------------|--------|
| 1月16日(日) 甲山と兵庫県南部地震の爪痕 | 42名参加 |
| 2月20日(日) 高安山・信貴山の地形と岩石 | 64名参加 |
| 3月20日(日) 加太・城ヶ崎海岸の海藻を食べよう! | 雨天中止 |
| 4月17日(日) 木津川 | 54名参加 |
| 5月15日(日) 大阪教育大学キャンパスの雑木林を歩こう | 82名参加 |
| 6月19日(日) 生駒山系高安地区の里山を歩こう | 雨天中止 |
| 7月17日(日) 大和川・石川合流点の魚と地形 | 121名参加 |
| 8月27日(土) ウミホテルを見よう | 81名参加 |
| 9月18日(日) 岩湧山山麓の溪谷を歩く | 70名参加 |
| 11月27日(日) 奈良公園の哺乳類さがし | 95名参加 |

- 12月18日（日）宇治の里山をあるく 48名参加
- (2) 友の会秋祭り
10月16日（日）秋の予感、ケモノの気配
81名参加
- (3) 友の会合宿
5月3日（火祝）～4日（水祝）
成ヶ島 62名参加
7月16日（土）～18日（月祝）
昆虫合宿「美方高原」45名参加
8月5日（金）～7日（日）
福井・奥越 44名参加
- (4) 韮公園セミのぬけがらしらべ
9月4日（日） 41名参加
- (5) ビオトープの日（12回実施381名参加）
1月15日（土） 18名参加
2月19日（土） 26名参加
3月19日（土） 43名参加
4月9日（土） 18名参加
5月21日（土） 56名参加
6月18日（土） 28名参加
7月16日（土） 51名参加
8月20日（土） 37名参加
9月10日（土） 31名参加
10月15日（土） 26名参加
11月26日（土） 33名参加
12月17日（土） 14名参加
- (6) 鳥類フィールドセミナー（10回実施256名参加）
1月22日（土） 29名参加
2月19日（土） 21名参加
3月12日（土） 26名参加
4月3日（日） 40名参加
4月9日（土） 36名参加
5月7日（土） 25名参加
7月31日（日） 21名参加
9月10日（土） 23名参加
10月15日（土） 16名参加
11月26日（土） 19名参加
- (7) 友の会限定！収蔵庫見学ツアー
2月6日（日） 47名参加
2月11日（金祝） 50名参加
- (8) クモの網の標本パネルづくり
6月5日（日） 38名参加
- (9) シカを探しながらナイトハイク
6月25日（土）～26日（日） 31名参加
- (10) 友の会の夕べ
7月2日（土） 111名参加
- (11) 自然史ナイトミュージアム
9月24日（土）～25日（日） 106名参加
- (12) 長居公園のタヌキ観察会
10月22日（土） 雨天中止
11月23日（水） 37名参加
- (13) 友の会総会
1月30日（日） 250名参加
3. 東日本大震災の復興支援イベントを7月24日に開催し、200名以上の参加者が訪れた。イベントの中でフリーマーケット、バザー、オークション、東北物産を食べようパーティーなどを実施し、その収益である307,638円を日本博物館協会と日本赤十字社に義援金として寄付した。
4. 東日本大震災で被災した陸前高田市海と貝のミュージアムの貝類標本の洗浄作業を行う方を会員から募り、その標本修復作業を行った。
5. 大阪自然史フェスティバル2011リミテッド（11月19日～20日）に出展し、ビオトープ案内とシュロ工作コーナーの開催、友の会の紹介、入会の案内を行った。
6. 博物館や友の会行事の「補助スタッフ」を会員から募り、指導や引率の補助をしていただいた。

■役員（2011年度）

会 長：西川喜朗

副 会 長：谷田一三、山西良平

評 議 員：板本瑤子、稲本雄太、浦野信孝、河合正人、
橋高加奈子、小林春平、高田みちよ、田代貢、鍋島靖信、西澤真樹子、花岡皆子、弘岡拓人、藤江隼平、堀田 満、道盛正樹、三宅規子、宮崎智美、村井貴史、森 康貴、山崎俊哉、米澤里美

会計監査：加納康嗣、左木山祝一

広 報 事 業

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。

<体制>

定例では月1回、必要に応じて臨時に、学芸課（5名）と総務課（3名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの1名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

<広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館、協会、および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブへ、特別展の開催を発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
大阪市内広報掲示板へのポスター掲示	特別展の際には応募し、当選すれば掲示している。B2縦またはB3横のポスターが750部掲示できる。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内や、公園内に看板を設置。毎月の行事案内や、博物館への誘導をしている。特別展の際にはのぼりを80本製作し、長居公園や周辺商店街に掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。

ゆとりとみどり振興局文化局での広報	文化部の博物館群へ、情報を提供し、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。大阪市動画サイト、携帯サイト、いちょう並木、毎日新聞「満載イベント」編など
大阪市博物館協会内での共同広報	大阪歴史博物館・大阪市立科学館・大阪城天守閣・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市文化財研究所・大阪市立自然史博物館・大阪市立天王寺動物園の8施設で共同広報を行っている。8ONポスターや、ミュージアムウィークスなど

<広報先>

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	チラシ類は、大阪市内・府下を中心に、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市立の学校には通送便を活用している。特別展等、広範囲に広報する場合は、日帰り圏内まで送付範囲を拡大する。
地元小学校への広報	イベントの種類によっては、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。東住吉区・住吉区の2区の場合、阿倍野区を加えて3区の場合、全区の場合など、イベントの規模によって範囲を変えている。
大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校生物地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会（東住吉区、住吉区、阿倍野区）へ特別展のチラシの掲出依頼、内覧会招待の案内を行っている。また、地元の商店へは、ポスターの掲示依頼などを行っている。

<2011年度の広報状況>

印刷物の発送先（学校以外）	大阪市内・府下を中心に、博物館の日帰り圏内約750件 施設種類：大阪市内博物館、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設、インフォメーションセンターなど
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしい自然観察会春・秋（40,000枚）、ワークショップ4回（124,000枚）、地球科学講演会（15,000枚）、特別陳列「お披露目！博物館に届いた新しい標本」(ポスターB2 50枚)、特別展「来て！見て！感激！大化石展」(ポスターB2 2,900枚、B3 6,300枚、チラシ 60,000枚)、ホネホネサミット2011（ポスターB2 1,500枚、チラシ 25,000枚）、音楽と自然のひろば（25,000枚）、大阪自然史フェスティバル2011（ポスターB2 1,425枚、チラシ75,250枚）、毎月の催し物案内（2,000枚）
情報提供しているメディア関係	約194社 （特別展関係100、行事情報94）
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ21社、大阪科学・大学記者クラブ17社、大阪市内区役所広報24区
テレビ放送（特別展以外）	8/5（金）関西テレビ「スーパーニュース・アンカー」セミの解説 8/12（金）朝日放送「L I F E 夢のカタチ」昆虫標本について 9/18（日）NHK教育テレビ「俳人のことば」恐竜展示前にて撮影 9/6（火）読売テレビ「関西情報ネットテン」カエントケについて 10/28（金）関西テレビ「スーパーニュース・アンカー」日本鳥の巣図鑑について など、9件
新聞報道（特別展以外）	6/21（火）読売新聞「標本復元 博物館の底力」 6/26（日）毎日新聞「津波被害の昆虫・植物標本レスキュー」 9/26（月）朝日新聞「群落保全遺伝子型カギ」 10/21（金）日経新聞「触るなカエントケ」 11/24（木）産経新聞「府内16高校生物部員が研究発表会」 1/14（土）京都新聞「久御山に外来種シジミ」 など、13件

<特別展の広報>

■特別陳列「お披露目！博物館に届いた新しい標本」
会 期：4月29日（金・祝）～5月29日（日）
プレス発表：2011年3月9日（水）
内 覧 会：2011年4月28日（木）
プレス内覧会：4社（産経新聞、ラジオ関西など）
広 報 媒 体：21の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ0、ラジオ2
特 記 事 項：初の試みとして、ブロッカー内覧会を実施。参加5件。

■第42回特別展「来て！見て！感激！大化石展」
会 期：7月2日（土）～8月28日（日）
プレス発表：2011年5月10日（火）
内 覧 会：2011年7月1日（金）
プレス内覧会：14社（テレビ朝日、産経新聞、大阪日日新聞、共同通信社、ラジオ大阪、ラジオ関西、ほっとネット・ベイコムなど）

一般内覧会：60名（地元町内会関係者、友の会会員、招待者）

広 報 媒 体：66の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ4、ラジオ3。

特 記 事 項：大化石展のキャラクター「まきまき太郎」を制作。ツイッターでの情報発信、ミニのぼりや手作り帽子（図）によるPRを実施。



図4. 手作り帽子

■パネル展「今 地震・津波を考える」
会 期：7月23日（土）～8月28日（日）
資料提供：2011年7月12日（火）
広報媒体：7の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ0、ラジオ0。

*は館外研究者、[No.]は当館業績番号。

■研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第66号, 2012年3月31日発行, 48ページ.

大谷道夫*: 大阪湾から採取した *Hymeniacidon flavia* Sim and Lee, 2003 (尋常海綿綱, イソカイメン科) の形態学的記載と新称キイロイソカイメンの提唱. 1-7. [No.430]

平田和彦*・長谷川美奈子*: 給餌に集まるユリカモメの年齢構成—餌タイプによる比較: 人工餌と魚. 9-18. [No.431]

富永修*・初宿成彦・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ甲虫班: 淀川水系におけるドロムシ科・ヒメドロムシ科甲虫相と分布. 19-38. [No.432]

富永修*・初宿成彦・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ甲虫班: 淀川水系のヒラタドロムシ相および分布. 39-48. [No.433]

■自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第3巻第12号, 2012年3月31日発行, 43ページ.

大阪鳥類研究グループ: 大阪府のため池に生息する繁殖期の水鳥の分布. 167-209. [No.429]

第3巻第13号, 2012年3月31日発行, 14ページ.

大阪湾海岸生物研究会: 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-2006~2010の調査結果-. 211-224. [No.434]

■収蔵資料目録

第44集「大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録(2) —ゴミムシ類, カミキリムシ科ハナカミキリ属, ハムシ科」B5版. 全372ページ. 2012年3月31日発行.

■常設展解説書

ミニガイドNo.24「ナウマンゾウ おおさかにいたゾウのはなし」

こども向け絵本、A5横版、本文32ページ(総カラー)。平成24年3月30日発行。400円。

■特別展解説書

第42回特別展「来て!見て!感激! 大化石展」解説書「化石でたどる生命の歴史」

一般市民向け、B5縦版、本文48ページ(総カラー)。平成23年7月2日発行。700円。

■大阪市立自然史博物館叢書

小海途銀次郎・和田 岳著、大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編「日本 鳥の巣図鑑—小海途銀次郎コレクション—」大阪市立自然史博物館叢書⑤。東海大学出版会、全391ページ、平成23年8月20日発行。2800円+税。

自然史博物館の5項目にわたるミッションと中期目標の中には以下のような項目がある。

〔ミッション3〕

地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。

博物館活動のパートナーとなるNPOやアマチュアを大切に、自然愛好家の層を厚くしていきます。

(中期的目標)

- ・学校・地域との連携事業など市民との交流をNPOと協働して進めます。
- ・アマチュア研究活動や、地域での自然体験活動を支援します。このために博物館も地域で実施する観察会を充実させます。
- ・地域の文化財行政・自然保護行政に積極的に貢献します。

〔ミッション4〕

他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。

広域のネットワークや学術連携、協働でのプロモーションにより、より高度な博物館活動を目指します。

(中期的目標)

- ・西日本自然史系博物館ネットワークを中心とした他の博物館との連携・交流や共同事業を強めます。
- ・研究・教育において大学など高等教育機関との連携を進めます。
- ・大阪市の博物館群や長居植物園などとの連携を進めます。

いずれも、大阪市立自然史博物館が「地域の自然の情報拠点」として機能するために欠くことのできない項目であり、連携によって多様な相乗効果を生んでいることを挙げる事ができる。

ミッション3に関連して、学校教育、地域、アマチュアとの連携の要になっているのが、大阪自然史センターとのパートナーシップである。自然史センターは関西自然保護機構と合流を果たし、自然科学的な面からの自然環境保全への取り組みを強めている。このため、関西各地で自然環境の保全や保護に取り組む団体などとの連携を強化した。学校教育面では今年度は大阪府高校生物教育研究会との自然史センター・博物館との連携を強化してきたところである。

西日本自然史系博物館ネットワークとの連携はGBIF関連の自然誌情報発信事業を中心に、多様な展開を見せている。

研究・教育における大学など高等教育機関との連携については、既に各種団体との協力の事例については普及教育事業に、共同研究については調査研究事業に記されている。大阪市の博物館群・長居植物園との連携についてもミュージアムウィークスの開催をはじめとして、多様な展開を見せている。これらの各項目については以下に改めて記載する。

高校生物研究会など

- ・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2011年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。会員も130名を越し、西日本の自然史系博物館の安定なネットワーク組織として活動している。当館も中核となる加盟館として連携し以下のような共同事業をおこなった。自然史系博物館における収蔵品データ整備事業・研究会、企業との共催による生物多様性協働フォーラムの開催、自然史標本救済に関するネットワークの立ち上げ、博物館展示リニューアルに関するワークショップ、プラスチック封入標本作成講座、100円ショップグッズを使った自然観察と展示講座、大型プリンタ活用ワークショップ、鳴く虫巡回展、タンポポ調査巡回展の協力など。

2011年3月に起こった東日本大震災に際しては、加盟館と連携協力し、予想される被災自然史系博物館施設等の支援にむけての情報の収集を震災直後から開始し、その後、現場および加盟館において標本レスキューを行った。また、2011年2月に林原グループが法的整理のもとに置かれたことによって、将来の動向が不安視された林原自然科学博物館に関しては、標本資料の将来への継承を願う見解を発表した。(2011.

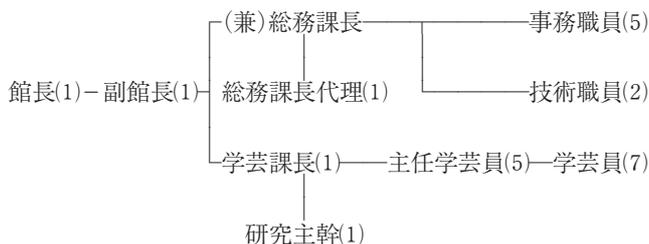
1. 1~2011. 12. 31)

I. 沿革

- 昭和24年11月8日 - 自然科学博物館開設準備委員会設置
- 昭和25年4月1日 - 自然科学博物館費予算に計上
- 昭和25年11月10日 - 市立美術館2階廊下にて展示開設
- 昭和27年4月17日 - 博物館相当施設に指定
- 昭和27年6月2日 - 大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
- 昭和27年7月10日 - 博物館法第10条により登録(第2号)
- 昭和27年10月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(39. 7. 4 退任)
- 昭和32年6月7日 - 市立美術館より西区靱2丁目(元靱小学校校舎改造)に移転
- 昭和33年1月13日 - 開館
- 昭和34年 - 新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
- 昭和39年 - 日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定(文部省)
- 昭和39年8月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(非常勤嘱託-40. 7. 31退任)
- 昭和40年8月1日 - 千地万造 館長に就任(58. 6. 1 退任)
- 昭和42年 - 大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
- 昭和44年8月 - 新館建設のための基本構想審議委員会組織
- 昭和45年4月 - 自然史博物館建設委員会組織
- 昭和47年1月21日 - 自然史博物館建設工事着工
- 昭和48年3月31日 - 自然史博物館建設工事竣工
- 昭和48年4月1日 - 旧館閉館
- 昭和48年7月 - 新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結(竣工49年3月)
- 昭和49年4月1日 - 大阪市立自然史博物館条例公布
- 昭和49年4月26日 - 自然史博物館開館式挙行
- 昭和49年4月27日 - 開館
- 昭和51年8月19日 - 文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
- 昭和58年7月1日 - 千地万造 館長に就任(非常勤嘱託-61. 3. 31退任)
- 昭和59年6月 - 常設展更新基本計画案策定
- 昭和60年3月 - 常設展更新計画書策定
- 昭和61年3月31日 - 常設展更新業務完成
- 昭和61年4月1日 - 新装開館
- 昭和61年4月1日 - 小川房人 館長に就任(兼務-2. 3. 31定年退職)
- 昭和61年4月1日 - 千地万造 顧問に就任(非常勤嘱託-2. 3. 31退任)
- 平成2年4月1日 - 小川房人 館長に就任(非常勤嘱託-3. 3. 31退任)
- 平成2年度 - 文化施設整備構想調査
- 平成3年4月1日 - 小川房人 顧問に就任(非常勤嘱託-5. 3. 31退任)
柴田保彦 館長兼学芸課長に就任(4. 3. 31定年退職)
- 平成3・4年度 - 自然史博物館整備構想調査事業
21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
- 平成4年4月1日 - 柴田保彦 館長に就任(非常勤嘱託-7. 3. 31定年退職)
- 平成7年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(9. 3. 31定年退職)
- 平成7年度 - 自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
- 平成8年度 - 展示更新基本計画及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討
- 平成9年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(嘱託-10. 3. 31退職)
- 平成9年度 - 展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
- 平成10年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(13. 3. 31定年退職)
- 平成10年12月 - 花と緑と自然の情報センター建築工事着工
- 平成13年3月 - 花と緑と自然の情報センター竣工
- 平成13年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(非常勤嘱託)
- 平成13年4月27日 - 花と緑と自然の情報センター開館式挙行
花と緑と自然の情報センター開館
- 平成17年4月1日 - 山西良平 館長に就任
- 平成18年3月1日 - 本館エントランス及びポーチリニューアルオープン
- 平成18年4月1日 - 指定管理により(財)大阪市文化財協会が指定管理者となる
- 平成19年3月24日 - 第5展示室一部リニューアルオープン
- 平成20年4月26日 - 第5展示室全面リニューアルオープン
- 平成22年4月1日 - 財団統合により(財)大阪市博物館協会が指定管理者となる
- 平成24年3月 - 本館・大阪の自然誌コーナー・ネイチャーホールの展示照明等LED化

Ⅱ. 組織

■職員数（平成23年4月1日現在） 計24名



■職員名簿（平成23年4月1日現在）

職名	氏名	職種	氏名
館長	山西良平	学芸課長	川端清司
副館長兼総務課長	西田麗子	研究主幹	樽野博幸
総務課長代理	能美和幸	主任学芸員	金沢至
事務職員	高橋郁子	〃	波戸岡清峰
〃	加藤由紀子	〃	塚腰実
〃	釋知恵子	〃	初宿成彦
〃	松岡由布	〃	佐久間大輔
〃	長縄朋子	学芸員(動物)	和田岳
技術職員	西嶋正博	学芸員(四紀)	石井陽子
〃	植村政光	学芸員(四紀)	中条武司
		学芸員(昆虫)	松本吏樹郎
		学芸員(動物)	石田惣
		学芸員(植物)	志賀隆
		学芸員(植物)	長谷川匡弘

■人事異動

平成23年4月1日 川端清司 学芸課長に就任
樽野博幸 研究主幹に
佐久間大輔 主任学芸員に
長谷川匡弘 学芸員新規採用
植村政光 技術職員に
ゆとりとみどり振興局 局営繕担当より

平成24年3月31日 志賀隆 大阪市退職

Ⅲ. 庶務日誌

■平成23年度 博物館関係者来訪

23. 5. 14 三重県生活・文化部 新博物館整備推進室
博物館の整備・運営に関する現地視察
23. 6. 7 釜山海洋自然史博物館
博物館の展示、施設、運営状況等の資料収集
23. 7. 29 川崎市青少年科学館
館の運営業務の視察

23. 9. 6 千葉県立中央博物館
博学連携に基づく教育システム等の実態調査
23. 9. 19 大阪教育大学と国際協力機構 JICA との共同事業
エチオピア等アフリカ7カ国の視学官館内見学
23. 9. 28 北九州市立いのちのたび博物館
館内見学
23. 9. 30 独立行政法人国際協力機構 JICA
(国別研修)エジプト「本邦微生物管理研修」
23. 11. 19、20
(財)大阪市博物館協会外部評価委員会
館内視察
23. 11. 25 名古屋市科学館
館の運営状況の視察
23. 12. 7 韓国・国立大邱博物館
館内見学、普及教育事業について
24. 1. 24 北海道開拓記念館
文献、電子ジャーナル等について訪問調査
24. 3. 9 アメリカ・ロッキー博物館
福井県立恐竜博物館
特別展「新説・恐竜の成長」開会式
24. 3. 23 沖縄県・名護博物館
展示手法、資料の保存方法等について

■館長受嘱委員

- 全国科学博物館協議会 理事
平成19年4月1日～平成24年3月31日
- 近畿地方整備局 淀川河川事務所 淀川環境委員会委員
平成20年4月1日～平成24年3月31日
- 財団法人 大阪科学技術センター 評議員
平成21年4月1日～平成24年3月31日
- 財団法人 日本博物館協会 理事
平成20年6月10日～平成24年3月31日
- 兵庫県立人と自然の博物館 協議会委員
平成19年10月8日～平成25年10月7日
- 大阪府文化財保護審議会委員
平成20年1月19日～平成24年1月18日
- 独立行政法人国立科学博物館評議員
平成21年4月1日～平成25年3月31日
- 科学博物館活動助成事業審査委員
平成23年5月19日～平成24年3月30日

Ⅳ 決算

■平成21年度～平成23年度

(単位 千円)

		事 項	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 決算
歳入	第1部	入館料ほか	20,675	31,841	28,046
		雑収(展示解説等売却代)	2,283	2,733	2,958
		国庫補助金	0	0	0
	第1部計		22,958	34,574	31,004
	第2部	府補助金	0	0	0
		第2部計	0	0	0
		第1部・第2部合計	22,958	34,574	31,004
歳出	第1部	常設展覧事業	1,877	2,088	1,978
		特別展覧事業	10,263	21,762	19,544
		調査研究事業	11,476	9,867	14,185
		資料収集保管事業	8,211	4,342	5,222
		普及教育事業	4,834	5,289	4,947
		充実活性化事業	2,282	3,289	2,486
		一般維持管理費	306,643	302,134	292,411
		小計	345,586	348,771	340,773
	第2部	館藏品整備事業	0	0	0
		寄贈標本整理事業	0	0	0
		デジタルミュージアムの推進事業	0	0	0
		施設整備事業等	0	0	0
		収蔵庫設備整備事業	0	0	0
		小計	0	0	0
第1部・第2部合計		345,586	348,771	340,773	

V. 入館者数 (平成23年度)

■本館常設展入館者数

区分 月	有 料					無 料								計	開館 日数
	個 人		団 体		有料計	団 体					個 人		無料計		
	大人	高校生 大学生	大人	高校生 大学生		幼・保 育園等	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体 引率者	中学生 以下	優待・招 待・その他			
(23) 4	4,086	152	191	95	4,524	308	5,501	22	7	377	4,361	2,699	13,275	17,799	26
5	5,787	238	125	69	6,219	1,735	10,766	517	114	958	3,134	2,000	19,224	25,443	27
6	2,799	145	69	3	3,016	745	1,361	426	32	226	1,711	1,188	5,689	8,705	26
7	4,688	381	147	115	5,331	490	0	38	8	68	3,635	1,485	5,724	11,055	27
8	6,726	726	83	9	7,544	52	34	72	11	33	6,647	1,818	8,667	16,211	26
9	10,701	537	204	4	11,446	264	903	253	51	134	4,794	2,539	8,938	20,384	24
10	9,636	616	577	112	10,941	1,804	9,947	406	365	1,208	3,676	3,550	20,956	31,897	26
11	7,591	774	447	82	8,894	1,284	1,993	2,873	0	399	3,994	16,772	27,315	36,209	26
12	1,700	323	99	48	2,170	176	105	426	22	57	1,176	672	2,634	4,804	23
(24) 1	1,080	182	16	0	1,278	169	8	2	0	21	1,129	354	1,683	2,961	10
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	15,597	649	43	30	16,319	1,068	283	308	18	213	6,240	7,834	15,964	32,283	27
計	70,391	4,723	2,001	567	77,682	8,095	30,901	5,343	628	3,694	40,497	40,911	130,069	207,751	268

*平成24年1月16日～2月29日まで、本館は、内壁補修工事のため休館になる。

■本館常設展無料団体観覧内訳 (平成23年度)

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼 稚 園・保 育 所	102	4,955	64	3,140	166	8,095
小 学 校	127	11,428	204	19,473	331	30,901
中 学 校	36	2,057	53	3,286	89	5,343
特 別 支 援 学 校・他	4	113	4	357	8	470
福 祉 施 設	14	68	4	90	18	158
団 体 引 率 者		1,511		2,183		3,694
計	283	20,132	329	28,529	612	48,661

庶務

■特別展入館者数（平成10年度～平成23年度）

区分 年度	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高校生 大学生	優待・ 他無料	中学生 以下無料	大人	高校生 大学生	中学生 以下無料				
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8. 1～10.11	61	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8. 7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～ 9.24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.27～ 5.27	28	50周年だよ！標本集合！！
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6. 9～ 7.22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8. 4～ 9.24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10. 6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12. 8～ 1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあいワールド
	840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～ 3.31	14	世界の蝶と甲虫
14	2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4.31～ 5.12	36	世界の蝶と甲虫
	1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7. 6～ 9. 1	50	化石からたどる植物の進化
	6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9.14～11. 4	45	目で見える「がん」展
15	4,028	228	5,995	8,252	1	30	8	18,542	7.19～ 8.31	50	日本鳥の巣図鑑
	4,686	37	7,776	23,784	66	0	1,902	38,251	11.29～ 2. 1	49	親子で遊ぶ木とのふれあいワールド パート2
16	1,593	76	5,463	3,240	0	0	4,101	14,473	4. 1～ 5.30	44	いきもの図鑑 牧野四子吉の世界
	2,052	90	3,752	9,844	0	0	72	15,810	7.17～ 9. 5	44	貝ーその魅力とふしぎ
17	959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7.16～ 9. 4	44	ナチュラリスト展
	103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10. 8～11.27	45	恐竜博
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～ 9.18	45	大和川展
19	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7. 7～ 9. 2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～ 3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
20	28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4. 1～ 6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～ 9.21	56	ダーウィン展
	1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12. 7	38	地震展
21	4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～ 5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7. 4～ 8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11. 3	39	きのこのヒミツ展
	12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～ 3.31	10	大恐竜展
22	48,600	2,904	20,381	49,034	205	124	20,836	142,084	4. 1～ 5.30	52	大恐竜展
	1,405	1,262	3,535	2,724	92	0	1,264	10,282	7.24～10. 8	58	みんなで作る淀川大図鑑展
23	11,864	2,237	5,140	10,625	56	42	195	30,159	7. 2～ 8.28	50	来て！見て！感激！大化石展
	22,864	1,700	15,048	25,108	14	102	16,035	80,871	9.10～11.27	67	OCEAN！海はモンスターでいっぱい
	14,175	531	7,745	17,057	1	31	719	40,259	3.10～ 3.31	19	新説・恐竜の成長

VI. 貸室の利用状況

■講堂 平成23年度 13件

年月日	団体名	使用目的	人数
23. 4. 9	地球環境大学	地球環境大学 2011 講座	150
23. 5. 14	地球環境大学	地球環境大学 2011 講座	150
23. 5. 18	大阪府高齢者大学校	自然不思議発見 授業	60
23. 6. 11	地球環境大学	地球環境大学 2011 講座	150
23. 7. 9	地球環境大学	地球環境大学 2011 講座	150
23. 9. 10	地球環境大学	地球環境大学 2011 講座	150
23. 9. 23	いであ（株）	大阪湾生き物一斉調査結果発表会	100
23. 9. 24	地球環境大学	地球環境大学 2011 講座	150
23. 9. 30	日本菌学会	ミニシンポジウム「カビ・キノコによる物質変換」	40
23. 10. 1	地球環境大学	地球環境大学 2011 講座	150
23. 10. 22	地球環境大学	地球環境大学 2011 講座	150
24. 3. 4	国立大学法人 鳥取大学	シンポジウム「菌類のふしぎと他の生物との関わりあい」	150
24. 3. 25	財団法人大阪みどりのトラスト協会	緑化・育樹ポスターコンクール表彰式	100

Ⅶ. 施 設

自然史博物館本館

- 所在地 大阪市東住吉区长居公園1番23号
- 敷地面積 6,743.68㎡
- 建築面積 4,392.67㎡
- 延床面積 7,066.01㎡
- 構 造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下1階、地上3階

■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	(天井の高さ)
ナウマンホール		550.35㎡	11.00m
第1展示室		360.55㎡	3.30m
第2展示室		486.64㎡	7.20m
第3展示室		403.10㎡	4.70m
第5展示室		360.55㎡	4.20m
2階ギャラリー		266.29㎡	6.80m
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各	18.27㎡	2.70m
動物・昆虫・植物・地史研究室		各47.56㎡	2.40m
第四紀・外来研究室	各	36.54㎡	2.40m
生物実験室		49.20㎡	2.40m
化学分析室・サーバー室	各	18.27㎡	2.40m
電子顕微鏡室		37.43㎡	2.70m
動物標本制作室		37.71㎡	2.40m
昆虫・植物標本制作室	各	36.54㎡	2.40m
化石処理室		47.56㎡	2.40m
石工室		22.21㎡	2.70m
展示品製作室		28.05㎡	2.70m
第1収蔵庫		207.09㎡	3.00m
第2収蔵庫		310.08㎡	3.00m
第3収蔵庫		207.09㎡	3.00m
第4収蔵庫		310.08㎡	3.00m
書 庫		100.30㎡	7.40m
編集記録室		36.54㎡	2.40m
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)		319.09㎡	2.60m (平均)
ミュージアムサービスセンター		93.30㎡	2.70m
集会室		95.12㎡	2.70m
旧実習室		96.76㎡	2.70m
(管理用施設)	計	907.49㎡	
館長室		36.54㎡	2.70m
1階部屋		18.27㎡	2.70m
事務室		83.34㎡	2.70m
応接室		29.54㎡	2.70m

休憩室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベータ	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階 段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■ 階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

■ 各室定員

講 堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	旧実習室……………	31人
展示室(1階) 415人		展示室(2階) 400人	
地 階……………	3人		

■ 工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ 総事業費	10億1,000万円
(建設工事費)	7億9,500万円
・ 本体工事(株竹中工務店)	4億9,200万円
・ 付帯工事	3億 300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費	
ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・ 第1展示室ディスプレイ(株日展)	2,200万円
・ 第2展示室ディスプレイ(株乃村工芸社)	2,500万円

庶 務

・第3展示室ディスプレイ（株丹青社）	2,100万円
・オリエンテーションホールディスプレイ （株電電広告）	600万円
・展示品購入費	3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、 資料保管用物品等	4,400万円

■ 国庫補助金・起債

・国庫補助金	3,000万円（47. 10. 13付交付決定）
・起債	3億8,762万円（47. 8. 25付交付決定）

花と緑と自然の情報センター

■ 所在地	大阪市東住吉区長居公園1番23号
■ 敷地面積	1,203.81㎡
■ 建築面積	1,203.81㎡
■ 延床面積	5,000.00㎡
■ 構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階、地上2階塔屋付建物

■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	(天井の 高さ)
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場（1）		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場（2）		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室（1）		36.80㎡	4.00m
前室（2）		16.20㎡	4.00m
(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
E V機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下		28.74㎡	3.00m
1階廊下		48.30㎡	3.00m

1階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
プロムナード	28.00㎡	5.00m
2階便所	57.02㎡	2.50m
E V室	47.52㎡	2.90m
トラックヤード	88.13㎡	
階 段	103.18㎡	
総計	5,000.00㎡	

■ 階数別面積

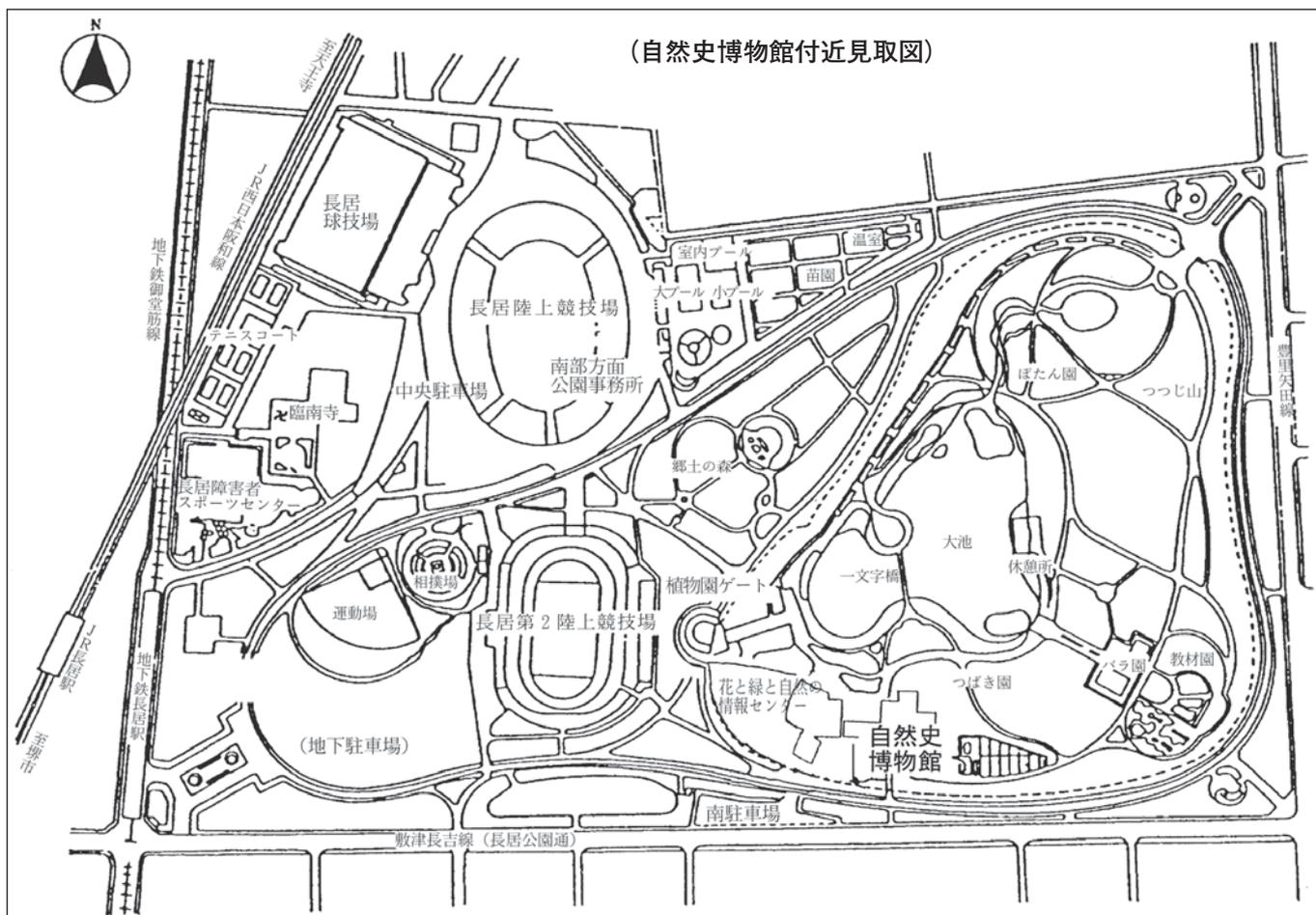
地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	993.04㎡
3階……	49.08㎡

■ 工 期 平成10年12月～平成13年 3月

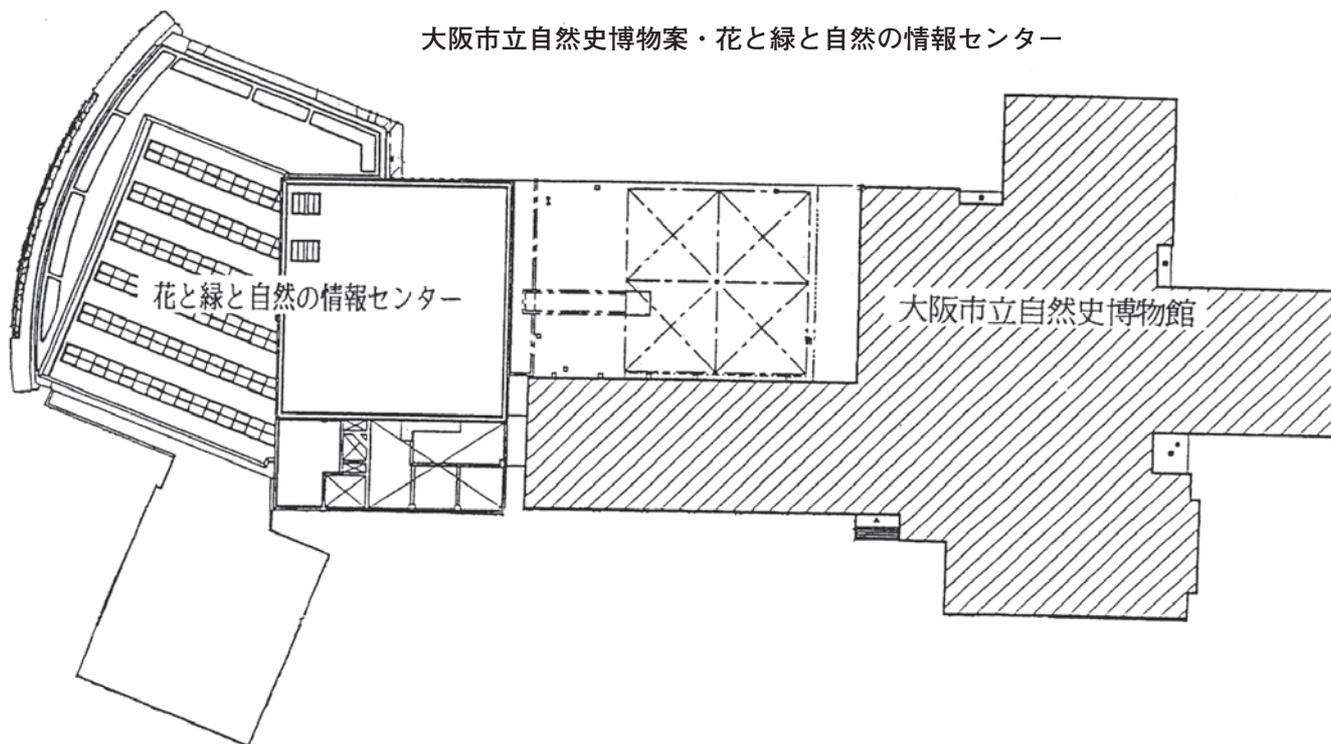
■ 総事業費	41億6,665万円
（建設工事費）	24億4,558万円
（設備工事費）	11億9,650万円
（設計監督委託料）	5,751万円
（外溝工事費他）	4億6,706万円

■ 起債等

・起債	34億7,477万3千円
・雑収（宝くじ協会）	3億6,001万7千円



大阪市立自然史博物案・花と緑と自然の情報センター

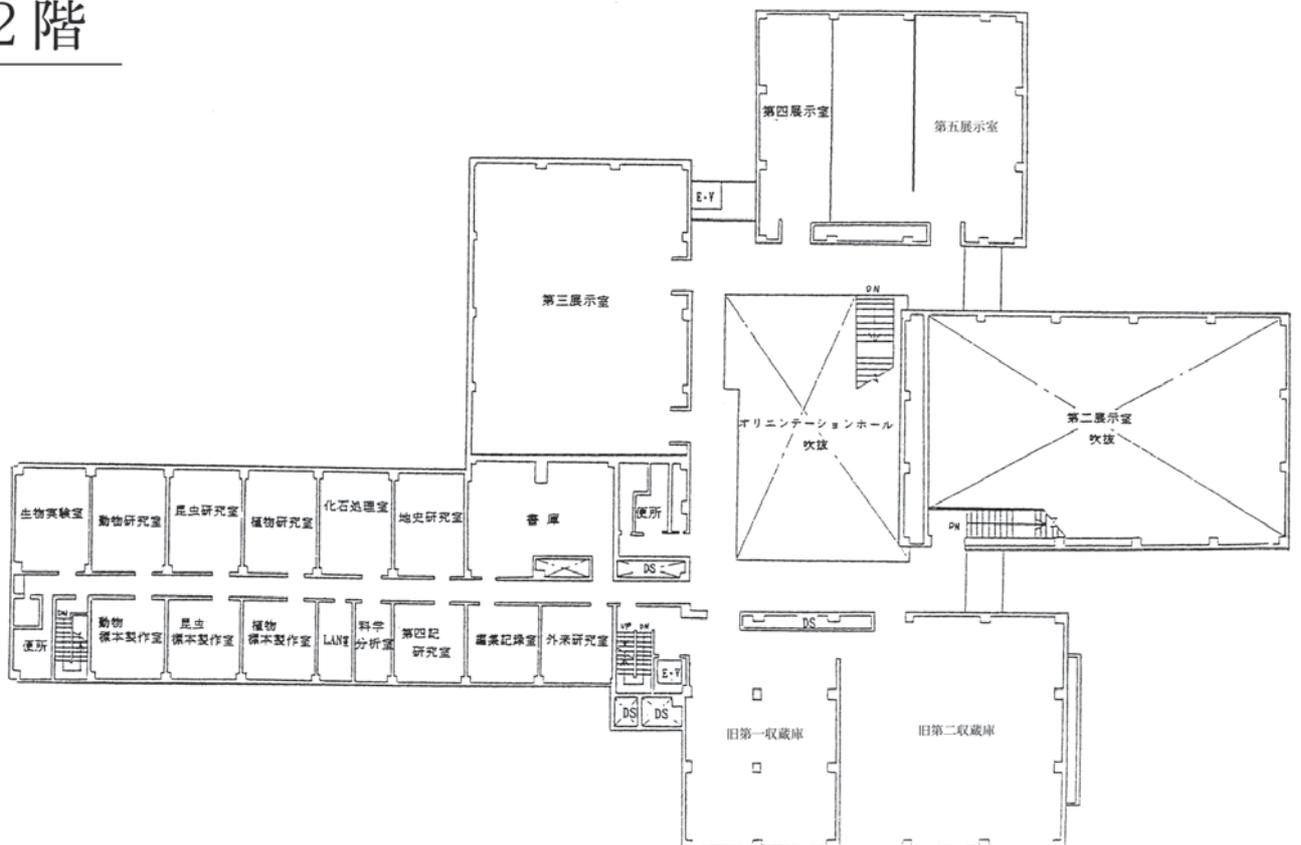


1階

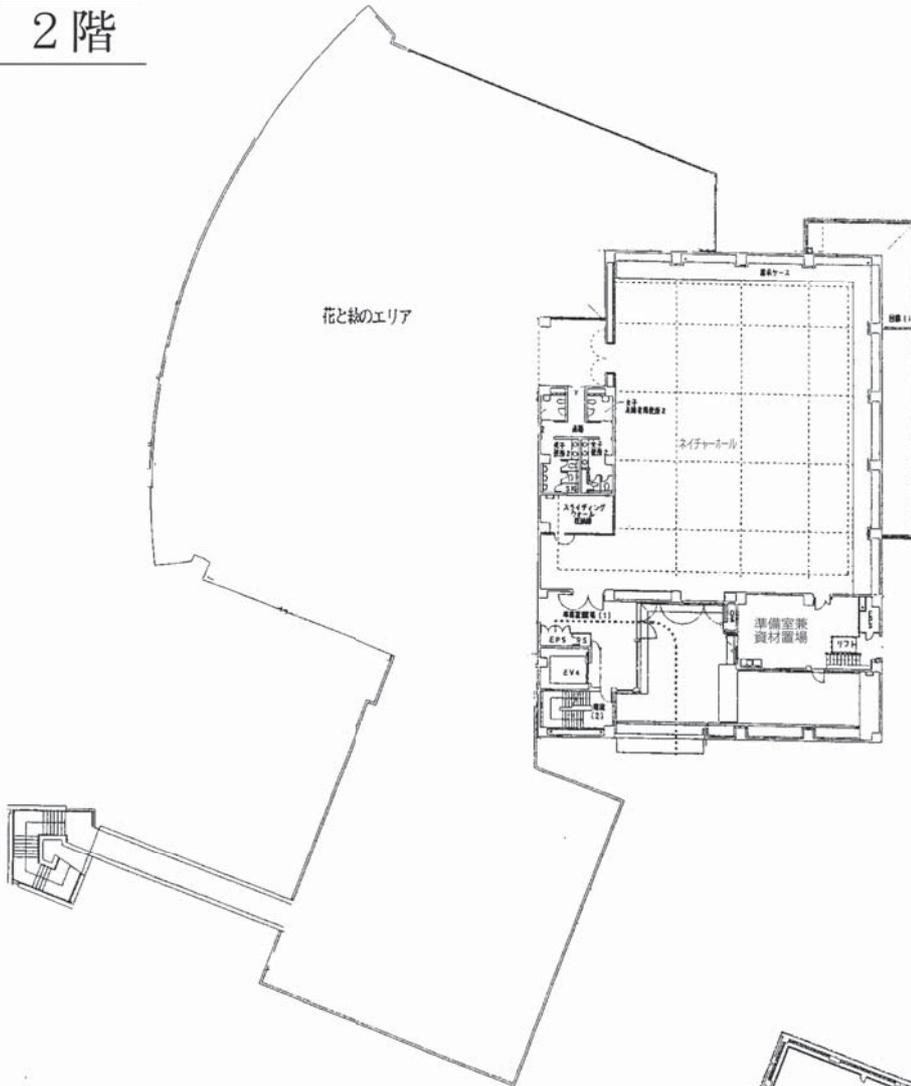
(自然史博物館本館)



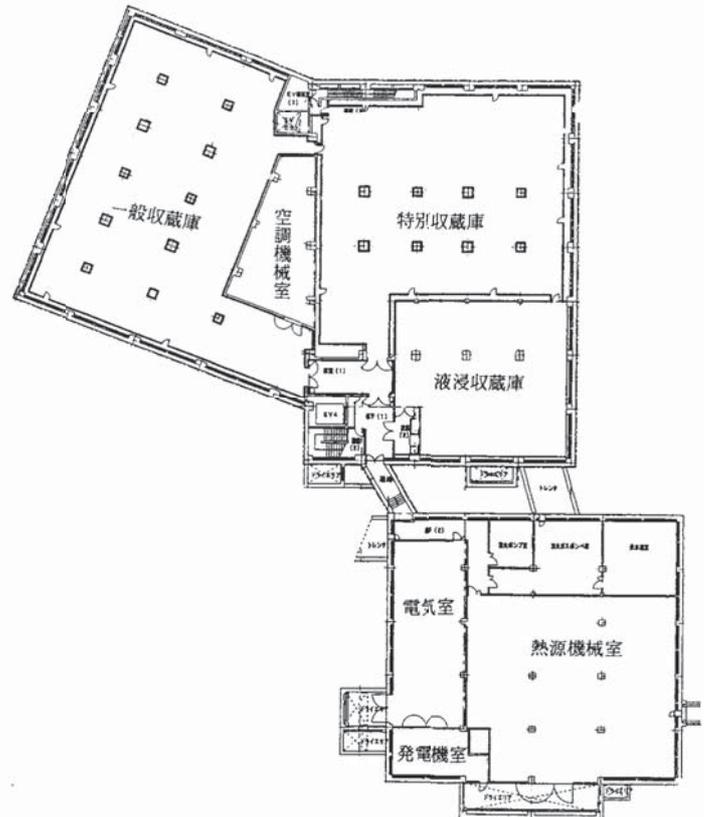
2階



2階



地下



○ 大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49. 4. 1
最近改正 平21. 11. 26

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

（設置）

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

（目的）

第2条 博物館は、自然史に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 自然史に関する実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 自然史に関する調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと
- (3) 自然史に関する展覧会、講習会、実習会、研究会等を開催すること
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導を行うこと
- (5) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (6) 博物館資料を貸し出し、及び交換すること
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

（博物館資料の寄贈又は寄託）

第4条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

（休館日）

第5条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、第15条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教

育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

（供用時間）

第6条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第6条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第6条第2項の規定により読み替えられた第5条第2項」と読み替えるものとする。

（使用の許可）

第7条 別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

（使用許可の制限）

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき
- (5) その他不相当と認めるとき

（使用許可の取消し等）

第9条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第7条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

（意見の聴取）

第10条 指定管理者は、必要があると認めるときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったと

きは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(特別研究の許可)

第11条 博物館資料について、特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(貸出しの許可)

第12条 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(入館の制限)

第13条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をす
るおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある
者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑とな
る物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(利用料金)

第14条 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料（特別の展示に係るものを除く。）1人
1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 特別の展示に係る観覧料 特別の展示ごとに教育委員会が定める額
- (3) 貸出料 その都度教育委員会が定める額

(4) 施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める額）

4 教育委員会は、前項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

5 指定管理者は、教育委員会規則で定める基準に従い、利用料金を減額し、又は免除することができる。

6 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

- (1) 災害その他施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
- (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
- (3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

第15条 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であつて教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

第16条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

第17条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

- (1) 破産者で復権を得ないもの
- (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消の日から2年を経過しないもの
- (3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうち、次のいずれかに該当する者があるもの
ア 第1号に該当する者

- イ 禁錮^ニ以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
- ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

第18条 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの(以下「指定管理予定者」という。)として選定してはならない。

- (1) 住民の平等な利用が確保されること
- (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
- (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第19条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。
(業務の範囲)

第20条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第3条の各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
- (2) 建物及び設備の維持保全に関すること
- (3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則 (昭和49年4月2日施行、告示第120号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (昭和51年4月1日条例第61号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和55年11月27日条例第48号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和56年4月1日条例第53号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和61年4月1日条例第50号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成4年4月1日条例第58号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成7年3月16日条例第40号)

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

附 則 (平成13年4月1日条例第62号、平成13年4月27日施行、告示第491号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (平成17年9月22日条例第109号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第343号)

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第15条の次に6条を加える改正規定(第17条から第19条まで及び第20条前段に係る部分に限る。)は、公布の日から施行する。

附 則 (平成19年12月28日条例第106号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成21年11月26日条例第130号)

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第7条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に3条を加える改正規定(第10条に係る部分に限る。)は、平成22年1月1日から施行する。

2 この条例による改正後の大阪市立自然史博物館条例(以下「改正後の条例」という。)第14条第3項の規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、同項及び改正後の条例第14条第4項の規定の例により行うことができる。

別表第1 (第7条、第14条関係)

区 分	施設使用料
特別展示室	1室1日につき 32,000円
講 堂	1室1日につき 17,000円

別表第2 (第14条関係)

区 分	観 覧 料
高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

○ 大阪市立自然史博物館条例施行規則

制 定 平成18年3月31日

最近改正 平成22年3月26日

大阪市立自然史博物館規則（昭和49年大阪市教育委員会規則第12号）を次のように改正する。

（趣旨）

第1条 この規則は、大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（博物館資料の寄贈等の申出）

第2条 条例第4条の規定により大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）に条例第3条第1号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

（寄託資料の取扱い）

第3条 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

（利用料金の納付時期）

第4条 条例第14条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

第5条 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種別及び金額は、別表のとおりとする。

（利用料金の減額又は免除）

第6条 条例第14条第5項の規定による利用料金の減免又は免除は、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者がこれを行うことができる。

2 利用料金の減額及び免除は、次のとおりとする。

(1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料について次に掲げる額を減額する。

ア 30人以上50人未満の団体 観覧料の1割

イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割

ウ 100人以上の団体 観覧料の3割

(2) 博物館の常設展示場に入場する者が大阪市立長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料について大阪市立長居植物園の入場料相当額を減額する。

(3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者は利用料金を減額又は免除することができる。

（指定申請の方法）

第7条 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）

(2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書

(3) 条例第16条第2項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあつては、これに相当する書類）とする。

(4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）

(5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類

(6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類

(7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類

(8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書

(9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

第8条 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

第9条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第7項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者

の代表者がこれに記名押印しなければならない。

- (1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先
- (2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること
- (3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況
- (4) 博物館の利用者数その他の利用状況
- (5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあっては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

（損害賠償等）

第10条 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

第11条 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助施行させることとした場合においては、第6条及び第12条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。

（施行の細目）

第12条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 大阪市立自然史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第27号）は、廃止する。

附 則（平成22年3月26日（教）規則第12号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
特別展示室	冷 房 設 備			16,000円
	暖 房 設 備			16,000円
講 堂	冷 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡 声 装 置	1式 午前、午後 各1回につき		1,800円
	マ イ ク	1本 午前、午後 各1回につき		500円
	ワ イ ヤ レ ス マ イ ク	1本 午前、午後 各1回につき		1,100円
	テ ー プ レ コ ー ダ ー	1台 午前、午後 各1回につき		900円
	ス ラ イ ド 映 写 機 （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		1,300円
	16ミリ映写機 （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		4,200円
	ビ デ オ 装 置	1式 午前、午後 各1回につき		2,200円
	液 晶 プロ ジ ェ ク タ ー （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		1,900円

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午までをいい、「午後」とは午後1時から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいい、「全日」とは午前9時30分から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいう。

○ 大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭和49年4月1日

最近改正 平成22年4月1日

(目的)

第1条 この要綱は大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市教育委員会条例第39号。以下「条例」という。）第14条の規定による大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）の観覧料、特別の展示に係る観覧料、貸出料及び使用料の減免に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（学校園等の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料）

第2条 保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校（以下「学校園等」という。）の保育士又は教職員が、学校園等行事で園児、児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときまた、その事前視察のときは、当該保育士又は教職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに大阪市教育委員会（以下「教育委員会」という。）にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 学校園等の名称、住所及び代表者氏名
- (3) 入場者の予定人員
- (4) 引率責任者の氏名
- (5) その他教育委員会が必要と認める事項

（社会福祉施設の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料）

第3条 次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の入所者及び入所者を引率した職員が博物館に入場しようとするときは、当該入所者及び入所者1名につき1名の職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 生活保護法（昭和25年法律第144号）
- (2) 児童福祉法（昭和22年法律第164号）
- (3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）
- (4) 知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）
- (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）
- (6) 老人福祉法（昭和38年法律第133号）
- (7) 障害者自立支援法（平成17年法律第123号）

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
 - (2) 社会福祉施設の名称、所在地及び代表者氏名
 - (3) 施設の設置根拠となる法律の名称
 - (4) 入場者の予定人員
 - (5) 引率責任者の氏名
 - (6) その他教育委員会が必要と認める事項
- 3 次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及び所持者1名につき1名の介護者の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。
- (1) 第1項第3号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
 - (2) 第1項第5号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
 - (3) 知的障害者福祉法施行令（昭和35年政令103号）の規定による判定書
 - (4) 原子爆弾被害者に対する援護に関する法律（平成6年法律第117号）の規定による被爆者健康手帳
 - (5) 戦傷病者特別援護法（昭和38年法律第168号）の規定による戦傷病者手帳
- （大阪市内在住者の観覧料の特例及び特別の展示に係る観覧料）

第4条 大阪市内在住の65歳以上の市民で本市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証等を所持している者は、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。
（大阪市施策による観覧料及び特別の展示に係る観覧料の特例）

第5条 大阪市が発行する以下のものを所持している者は、観覧料を免除する。

- (1) 民生委員・児童委員特別入場券
 - (2) 青少年指導員証、青少年福祉委員証
 - (3) 地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
 - (4) 生涯学習推進員証
 - (5) 大阪市立ミュージアム御招待証（ふるさと納税寄付者）
 - (6) 成人の日記念事業施設招待券
 - (7) 博物館・美術館・特別入場施設案内&パスの入場券（(財)大阪国際交流センター発行）
- 2 大阪市が発行する以下のものを所持している者は、特別の展示に係る観覧料を免除する。
- (1) 民生委員・児童委員特別入場券
 - (2) 青少年指導員証、青少年福祉委員証
 - (3) 地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
 - (4) 生涯学習推進員証
 - (5) 博物館・美術館・特別入場施設案内&パスの入場券（(財)大阪国際交流センター発行）
- ただし、特別の展示に係る観覧料のうち博物館と

他者との共催で特別な展示を行う場合は除く。

第6条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除することがある。

- (1) 市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
- (2) 団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
- (3) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
- (3) 視察の目的
- (4) 入場者の予定人員
- (5) 視察する者の代表者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

(貸出料)

第7条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、館藏品等の貸出料を免除することがある。

- (1) 博物館法に基づく登録博物館、博物館相当施設及び博物館類似施設に貸し出すとき
- (2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関係することを目的とするとき
- (3) 学校の教育又は研究所の研究に使用することを目的とするとき
- (4) 報告書又は学会誌等において学術調査又は研究の成果を公表することを目的として使用するとき
- (5) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の貸出料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 博物館資料の名称
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的
- (4) 貸出期間
- (5) その他教育委員会が必要と認める事項

(使用料)

第8条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、規則別表第1及び規則別表2に規定する使用料を減額又は免除することがある。

- (1) 指定管理者が実施する博物館の事業と関連を有する講演会、講習会その他で、教育委員会が学術振興又は普及教育等に資すると認める行事に使用するとき
- (2) 博物館事業を行う指定管理者がNPO又は市民グループと連携を図る事業で、教育委員会が必要であると認める行事に使用するとき
- (3) 博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第1条の規定に基づく博物館実習に使用するとき
- (4) その他特別な事情により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 使用の日時
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的
- (4) 使用する施設及び附属設備
- (5) 入館者の予定人員
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

様式 1

自然史博物館に団体入館の時に入口で渡してください

	自然史博物館 使用欄			
	決 裁	課 長	主 査	係 員

障害者・中学生以下の学校団体等引率者用

大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会教育長 様

申請者 校 園 名
(団体名)
校 園 長 名
所 在 地
電 話

次の通り観覧料を免除下さるよう申請します。〔印不要〕

目 的	
日 時	年 月 日 () 午前・午後 時 分から
引率責任者氏名	
引率者(減免)人数	名
生徒・園児・障害者・他人数(学年)	名
合計人数	名
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第6条及び同規則第9条による。

様式 2

大阪市立自然史博物館使用料減免申請書

平成 年 日

大阪市教育委員会教育長殿

申請者 団体名
代表者名
住 所
電 話

下記の使用について、その使用料を免除下さるよう申請します。

使用年月日	平成 年 月 日	使用時間	午前 時 分～午前 時 分 午後 時 分～午後 時 分
使用目的			
日 時		参加人員	人
種別	数 量		
種別	午前	午後	全日
講堂			
冷房設備			
暖房設備			
拡声装置			
マイク			
ワイヤレスマイク			
スライド映写機			
16ミリ映写機			
ビデオ装置			

使用するにあたっては、大阪市立自然史博物館条例及び同規則を厳守し、かつ係員の指示に従い使用中に発生した一切の責任は、当方において負うことを誓約します。

注意事項

使用時間

	自然史博物館 使用欄			
	決 裁	課 長	主 査	係 員

午前・・・午前9時30分～正午
午後・・・午後1時～午後4時30分
全日・・・午前9時30分～午後4時30分
(準備と後片付けの時間は使用時間に含まれます)

○博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館
 制定 平成7年2月1日
 改訂 平成13年4月1日
 改訂 平成23年1月1日

(目的)

1. この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入れの規制)

2. 受入れの時期は夏期（7月～9月）・秋期（10月～11月）・冬期（12月～1月）の期間中とし、一人当りの実習日数は5日以内で、当館が指定する。
3. 受入れ人数の総数は、年間30名程度とする。ただし、一大学について5名以内とする。
4. 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学または地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。

(実習の内容)

5. 実習の内容は、①一般実習コース、②普及教育専攻コースにわけて実施する。
 - ①一般実習コースは、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助など、博物館の事業全般についての内容とする。
 - ②普及教育専攻コースは、当館の特色である多様な普及行事の実施にあたって、企画・運営・まとめなどに参画する内容とする。

(受入れの願書)

6. 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係または博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期・コースおよび希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月1日から当該年度の募集要項で指定する4月の期日までの間に、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。
 なお、学生個人からの依頼は受付けない。

(受入れの諾否)

7. 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

8. 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室または学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

○ 建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

制 定 昭 51. 12.
 改 正 昭 54. 7.
 最近改正 昭 62. 12.

(目的)

1 この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

2 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。

3 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

4 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

5 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。

- (1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
- (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
- (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
- (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
- (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

(その他)

6 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

	決 裁	管 理 課 長	庶 務 係 長	係 員
年				
月		学 芸 課 長	主 任 学 芸 員	学 芸 員
日				

写真・テレビ撮影等許可願

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長様

所在地

会社・団体名

代表者氏名印

(担当者:)

(電話番号:)

次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださるようお願いいたします。

日 時	平成 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
目 的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	

(テレビの場合)

放映日時

番組名

タイトル

(写真の場合)

掲載紙名

記事タイトル

著者名

発行者名

発行年月日

写真・テレビ撮影等許可書

様

大阪市立自然史博物館
館長

平成 年 月 日付で申請のあった「写真・テレビ撮影許可願」について次のとおり許可します。

日 時	平成 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
目 的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	

(許可条件)

- (1) 入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料を損傷させないこと。
- (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
- (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
- (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
- (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

○外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館
制定 平成12年4月1日

第1条 (目的)

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

第2条 (定義)

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

(1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

(2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、又は学会で当該分野における研究実績が認められる者。

・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行おうとする者。

・ 共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

第3条 (期間)

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

(1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

(2) 研究生・共同研究員

研究計画上必要と認められる期間。

第4条 (手続き)

(1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員（利用しようとする標本又は設備を管理する学芸員）から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票（様式1）に記入する。

(2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長又は指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書（様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付）を館長あてに提出する。

なお、機関に属しない者については、直接の申請ができることとする。（様式3）。

申し込み期限は利用開始の前々月15日とする。（外来研究員については前年度2月15日）。

第5条 (許諾)

前条の申し込みについての許諾は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

第6条 (経費)

当館は、外来研究者の施設利用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

第7条 (報告)

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

第8条 (成果)

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物又はその複写物を館長に提出しなければならない。

第9条 (変更・中止)

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

第10条 (資格の取消し)

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

様式 1

No. _____

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利 用 日	平成 年 月 日		
目 的			
利用する設備・機器、 収蔵資料			
利 用 者	氏 名	所 属 又 は 住 所	電話連絡先
担当学芸員名			

決	館 長	副 館 長	管理課長	学芸課長	庶務係長	係 員	学 芸 員
裁							

様式 3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書
平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)
住 所 _____
電 話 _____
氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

様式 3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書
平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)
住 所 _____
電 話 _____
氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	



ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2011

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 JAPAN

Issued : June 10, 2012.